

新しい学部・大学院研究科の創設について

—香川大学工学部・大学院工学研究科の創設を通して—

石川 浩

(香川短期大学学長, 香川大学初代工学部長・工学研究科長)

1. はじめに

未曾有の荒波を受けて, 平成16年4月, 国立大学が法人化され, 翌平成17年1月には中教審答申「我が国の高等教育の将来像(通称: 高等教育のグランドデザイン)」¹⁾が出され, 文部科学省ではこれまでの「高等教育計画の策定と各種規制」の時代から, 新しく「将来像の提示と政策誘導」の時代へと移行が図られて来た。法人化後ほぼ15年経過して平成30年11月, 今度は「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」という中教審答申²⁾が決定され, 以下の3つの方向性が提示されている。

- ① 学修者が「何を学び, 身に付けることができるのか」を明確にし, 学修の成果を学修者が実感できる教育を行うこと。このための多様で柔軟な教育研究体制が準備され, このような教育が行われていることを確認できる質保証の在り方へ転換されていくこと。
- ② 18歳人口が現在の7割程度の規模となる推計に照らして, 教育の質の維持向上という観点からの規模の適正化を図った上で, 社会人及び留学生の受入拡大が図られていくこと。
- ③ 地域における高等教育のグランドデザインが議論される場が常時あり, 各地域における高等教育が, 地域のニーズに応えるという観点からも充実し, それぞれの高等教育機関の強みや特色を活かした連携や統合が行われていくこと。

これ以外にも高等教育に関する各種答申³⁾が出されており, それらの趣旨を踏まえて, 高等教育改革の取り組みを推進していくことが今や待ったなしの重要事となってきている。

高等教育改革の中でも重要でインパクトの強いものは, 各種要請に合致する新しい学部や大学院研究科の創設であろう。周知のように, 国立大学(当時, 現国立大学法人)における新学部創設の4つの関門, すなわち, ①カリキュラム改革調査研究経費(平成6年度), ②大学改革等調査経費(平成7年度), ③工科系学部創設準備経費(平成8年度), 及び④工学部創設準備経費(平成9年度)という, それぞれの経費の獲得という関門を一瀉千里に駆け抜け, 香川大学に新しい5番目の学部として, 「安全システム建設工学」, 「信頼性情報システム工学」, 「知能機械システム工学」及び「材料創造工学」の4学科より成る「工学部」が創設されたのは平成9年10月1日であった。

新生工学部は, 「安全」「信頼性」「知能」の先行3学科が創設翌年の平成10年4月から, また「材料」は1年遅れの平成11年4月から学生受入を開始し, 平成12年3月には香川インテリジェントパークに新キャンパスを建設・移転した。平成14年3月, 先行3学科の第一期卒業生を社会に送り出すのに合わせて, 翌4月には全4学科を母体にした全4専攻(「材料」は未だ卒業生は出していないが, 1年早めて)の大学院工学研究科修士課程を創設, 第一期院生を受け入れた。そして, 学年進行により平成16年3月に大学院修士課程第一期修了生を社会に送り出すのに合わせて, 大学院工学研究科を拡充改組し, 博士前期課程(修士課程)及び後期課程(博士課程)から成る大学院工学研究科博士(前期・後期)課程

平成31年1月7日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 総務部
TEL 0877(49)5500

を開設、博士後期課程に栄えある第一期院生を迎え入れた。

工学部は時代ニーズを的確に見据えた先進の4学科。これを母体として煙突形に専攻課程を積み上げ、博士前期・後期課程ともに4専攻から成る設置形態は、旧帝大系を除いては全国的に極めて珍しく、香川大学工学部・大学院工学研究科の創設後の諸活動が関係方面に高く評価されて来た証左であろう。

さらにその後、工学部創設から20年余を経た社会ニーズの変化に照らして、平成30年4月、香川大学工学部は「創造工学部」に拡充改組され、リスクマネジメント能力とデザイン思考力を具備した21世紀型工学系人材養成への新しい道を歩み始めている。

これに関連して、香川大学に工学部を創設するための工学部設置推進委員会委員、同作業部会代表世話人、同構想案執筆委員会委員長、工科系学部創設準備室長、工学部創設準備室長及び初代工学部長並びに初代工学研究科長として、工学部並びに大学院工学研究科博士（前期・後期）課程の創設に東奔西走し、関係方面と綿密な折衝を重ねて困難を打破し、それを実現した当事者の一人として、創設に至る経緯並びにその後の諸活動を簡潔に記録に留め、後世に伝えることは極めて意義のあることと思われる。この点については、筆者がすでに香川大学五十年史⁴⁾に詳述し、またその後の香川大学工学部創立10周年記念誌⁵⁾にも記載されているところではあるが、事柄の重要性に鑑みて重複をお許しいただくとともに、創設に直接関与した者ならでは余話をも含めて読者諸氏の参考に供したいと思う。ご一読、ご高評賜るとともに、ご関係分野での新しい学部・大学院研究科の創設作業の一助にいただければ望外の幸せである。

2. 香川大学工学部・大学院工学研究科の創設理念と教育研究組織

2.1 創設理念

香川大学工学部の創設は平成9（1997）年10月であるから、本節での話はそれ以前の話としてご理解いただければ幸甚である。

さて、世の中は変容している。科学技術の中心を

担う工学も例外ではない。今後の工学は、これまでの工学が人類の文化、文明の発展に果たして来た役割を継承しつつ、人類社会の持続的発展のために、同時に露呈されてきた過去の負の遺産の解決にも力を注ぐ必要がある。

我が国はこれまで欧米先進諸国から技術や知識を輸入し、これを我が国の水準の向上にどう結びつけていくかに注力してきた。いわば、「何ができるか」を追究するキャッチアップ型の時代であったが、こうした時代は終わった。世界屈指の経済大国になった今、資源の乏しい我が国は、これまでのキャッチアップ型を脱して、「何をつくるか」「何をすべきか」を追究するフロントランナーとしての視点を整え、人に優しく自然と共生できる自律調和型の科学技術の創造に積極的に挑み、わが国が先頭に立って人類や地球全体の福利の増進を考え、国際社会の期待に応えながら、科学技術創造立国を目指して行かなければならない。また、工学研究を通して、技術者が新しい文化を創造する喜びを育みうるようにすることが大切である。

このような観点から、香川大学工学部（以下、「本学部」という。）の創設理念は、図1に示すとおり、「文理融合」とした。従来の狭い専門分野の枠組みにとらわれることなく、工学の変容を見据えて、人間、社会、自然、人工物という工学の対象をグローバルな視点から正しく理解し、人に優しく自然と共生する工学の新しいパラダイムの創出、人類の文化的創造性の場としての新しい工学像の構築を行う。

それぞれの専門分野における高度な知識や技術力、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の修得はもちろんのこととして、全学体制の下に行われる豊かな教養教育に加えて、経営能力、ベンチャーマインド、人間理解、倫理観、国際感覚、歴史的視点などの文系的センスを修得し、新世紀の工学プロフェッショナルに不可欠な能力「独善的でない倫理観・価値観を有し、21世紀の社会と調和できる柔軟な文系的思考力（文理融合）」「偏らない多角的な評価の視点と数理科学的能力（グローバル・アセスメント）」及び「広く世界で活躍できる国際コミュニケーション能力とリーダーシップ（プロフェッショナル・コミュニケーション能力）」を育

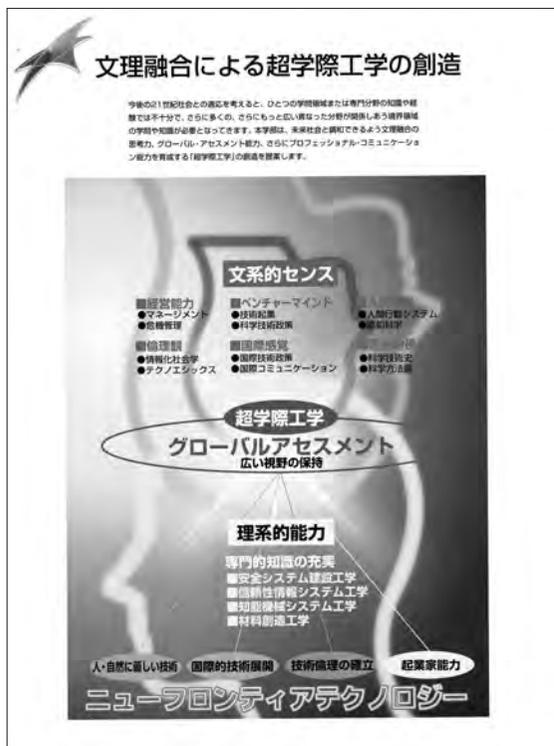


図1 創設理念「文理融合」

成する。

これによって、専門分野に方向付けされた幅広い工学のバックグラウンドを持ち、自己を的確に表現し、国際社会で尊敬される新しいタイプの人材、「豊かな教養を持ち、社会的責任を自覚した技術者」「企画力、実践力、管理能力を兼ね備えた技術リーダー」「社会や環境の観点から多様な技術評価能力を持つ開発者」「国際的な交渉能力と協調性を持つプランナー」を養成する。さらに、本学部は、人間社会の文化的財産となる研究の発信を行うとともに、先端研究分野と社会の期待を融合させ、地域の学術文化、産業、技術の振興にも大きく貢献する。

2.2 学科・専攻課程構成と教育研究組織

新しい学部の創設に当たっては、言うまでもなく、学科構成（カバーする専門領域の選定）は極めて重要であり、これについては以下の諸点を考えて。

- ① 21世紀の工学の主流を目指し、「人に優しく

自然とともに新しい科学技術の創造」という観点から、図2及び図3に示すように、次の4つの教育研究領域を重視した。それぞれのキーワードは、本学部の学科構成の基本となっている。すなわち、「自然環境の変化や災害から人間を守り、安全を確保し、不安のない快適な生活を支援する工学（自然との共生→安全システム建設工学科）」「高度のテクノロジーを伴いながら、すべての人に分かりやすく、人それぞれの個性を尊重する工学（ヒューマンフレンドリー→信頼性情報システム工学科）」「人間の持つ機能を最大限活かしその維持を支援する人間中心の工学（ヒューマンサポート→知能機械システム工学科）」及び「新規産業創出の基盤をなす新材料の開発と生産・使用・廃棄のすべてのサイクルにおいて環境に優しい工学（環境との調和→材料創出工学科）」である。

- ② 香川大学で既に世界的レベルに達している研究分野－例えば、信頼性工学、メカトロニクス、水システム工学など－は、積極的に取り込む。
 - ③ 同時に、マイクロ・マシン、材料設計工学、マルチメディア社会工学など、21世紀に最も必要とされるその他の先端分野を選定して配置する。
 - ④ メカトロニクス研究開発センターなど、COE（研究中核拠点）を目指した高度な研究センターの併設を目指す。
 - ⑤ 先に図1に示したように、文系の分野を積極的に取り込み、文理融合による超学際工学の創出により、新しい工学のパラダイムを構築する。
 - ⑥ 先端研究分野と社会の期待とを融合させ、地域ニーズに的確に答えて、地域の学術文化、産業、技術の振興に大きく貢献する。
- 以上の諸点を踏まえて、新生工学部並びに引き続き大学院工学研究科博士（前期・後期）課程の教育研究組織は、表1（工学部：学科、講座、教育研究分野、入学定員、学生受入開始年月）及び表2（工学研究科：専攻、研究分野、研究内容、入学定員、学生受入開始年月）に示すとおりである。

●香川大学工学部の基本理念

多角的アセスメントによる人や自然と共生できる科学技術の創造をめざして

これまでの科学技術は人間に多大な恩恵をもたらしてきましたが、他方では環境汚染や資源枯渇、また人間性喪失など、様々な課題を引き起こしつつあります。このように人間に利益をもたらす一方で、またこれまでの工学教育の成果を基盤として、新しい視点からの工学技術の発展と、新しい工学教育の構築をめざします。



図2 香川大学工学部4学科のキーワード

図3 創設された香川大学工学部4学科

表1 香川大学工学部教育研究組織

学 科	講 座	教育研究分野	入学定員	学生受入 開始年月日
◎安全システム建設工学科 Dept. of Safety Systems Construction Engineering 安全で豊かな社会システムの建設を目指して、21世紀に必要な水資源確保、安全防災、環境政策等に関する教育研究を行う。	水システム工学	水環境工学 水管理工学	60人	H10年4月
	防災システム建設工学	防災工学 施設工学 危機管理		
	環境政策工学	環境計画工学 環境変遷学 国際技術政策		
◎信頼性情報システム工学科 Dept. of Reliability-based Information Systems Engineering 人に優しい知的情報システムの開発を目指して、信頼性やセキュリティに重点を置いた新しい情報技術に関する教育研究を行う。	情報ネットワーク工学	分散コンピューティング 広域通信網 マルチメディア通信 情報化社会学	80人	H10年4月
	信頼性情報工学	知識情報処理 ヒューマン・コンピュータ・フェース 感性情報処理 認知科学		
	メディア電子工学	計算機システム マルチメディア・アーキテクチャ 知能エレクトロニクス		
	信頼性工学	信頼性解析 信頼性設計 数理統計工学 技術政策		
◎知能機械システム工学科 Dept. of Intelligent Mechanical Systems Engineering 人と人工物が共生する新しい知能機械システムの構築を目指して、人間支援工学を中心に機械・電子・制御技術と融合した教育研究を行う。	自律制御工学	精密計測・光学 知能センシング制御 グローバル生産システム マネジメント	60人	H10年4月
	知能機械設計工学	メカトロニクス設計 ロボット工学 自動設計 人間行動システム		
	造形工学	造形工学 構造設計 機械材料設計		
◎材料創造工学科 Dept. of Advanced Materials Science 人や自然に優しいモノづくりを目指して、環境との調和・資材の有効利用等に配慮した新材料の開発、製造システム化技術等に関する教育研究を行う。	材料システム工学	自律材料システム アモルフィス材料設計工学 材料経営工学 科学技術史	60人	H11年4月
	材料プロセス工学	構造材料 機能材料 脆性材料		
	材料物理工学	光機能材料物性 電子材料物性 材料物性工学 科学方法論		
◎寄附講座 Endowed Chairs	(H11.6～) 基礎地盤動力学 (穴吹工務店)	基礎地盤動力学	20人	H12年4月
	(H13.7～) メンテナンス工学 (四國機務)	メンテナンス工学		
	(H15.4～) ベンチャービジネス創生工学 (香川証券)	ベンチャービジネス創生工学		
	第3年次編入学(別枠)			
入学定員合計			280人	

[注] 赤字で記載した教育研究分野は、「文明融合」の目指す理念に基づき、文系的センス修得のために導入。

3. 創設に至る経緯

本章に記載した内容は、筆者が先に香川大学五十年誌⁴⁾に投稿したものとほとんど同一である。創設に関わられた関係各位のご努力と問題解決作業推進方法等をできるだけ詳細に記述し、参考に供させていただくこととしたい。主旨をご理解賜り、ご海容願えれば幸甚である。

3.1 香川大学内での創設運動

本学部及び大学院工学研究科(以下、「本研究科」と言う。)の創設に至るまでの学内、県内、並びに国における動向の概略は表3に、また学内諸機関・委員会等での審議経緯の概略は表4に示すとおりである。本章での記述と関連付けて、適宜ご参照願えればと思う。

3.1.1 前史

昭和42年に芸術工学部構想が学長私案として検討されたが、学園紛争対策などのためか本格的議論には至らなかった。その後理工系学部設置構想が浮上するのは、昭和58年3月整備拡充小委員会専門委員会が本学の将来構想と校地問題について評議会に報告、同年9月の評議会です承され、本学の整備拡充の基本構想として、生物科学部及び理工系学部の設置を検討することとなってからである。昭和60年3月1日木村等前経済学部長が学長(～平成3年2月28日)に、引き続いて平成3年3月1日岡市友利前農学部長が学長(～平成9年2月28日)に就任、理工系学部設置推進に注力することとなった。

平成5年3月刊行の第1回自己評価報告書「香川大学 現状と課題－教育と研究－」において理工系学部設置構想検討の提言がなされ、同年10月1日将来構想委員会を設置して本格的な検討を開始。10月25日の第2回将来構想委員会において、来年度概算要求で調査費が和歌山・鳥根両大学に認められそうな雰囲気伝えられるに及んで、全学的な将来構想としてまず地域から要望が強い理工系学部の設置について検討すること、このため設置構想素案を取りまとめる作業グループとしてプロジェクト部会の設置を決定。これを受けて11月19日以降、「将来構想委員会プロジェクト部会」(座長:奥谷康一農学部長。役職は当時、以下同じ。)で種々検討を行い「理工系学部設置計画書(案)」を作成、この案を基に平成6年3月16日、5学部(学部新設)構想案で文部省説明を行ったが、芳しい反応は得られなかった。

3.1.2 カリキュラム改革調査研究経費獲得までの歩み

平成6年4月1日羽田喜次事務局長が着任(～平成8年3月31日)、事務局サイドからも設置構想を推進。4月22日には委員を強化した「構想案策定作業部会」(座長:近藤浩二教育学部長)を設置し、理工系学部を工科系学部と変更し、構想案の熟度を高め、6月3日に部会長から再度5学部案で文部省説明を行った結果等を勧案して「人間アムニティ工学部(仮称)設置計画書(案)」(「機能材料」「メカトロニクス」「環境アムニティ」の3学科構成。入学定員は各学科50人、計150人)を作成、平成7年

表2 香川大学大学院工学研究科教育研究組織

専攻	研究分類	研究内容	入学定員	学生受入 開始年月日
○安全システム建設工学専攻 Division of Safety Systems Construction Engineering 地球環境を人間社会の生命維持装置として捉え、地球環境システムをグローバルに評価し、安全で快適な環境を創造することを目的とした教育研究を行う。具体的には、ミクロ及びマクロな水循環系の計画・評価・予測・保全技術、社会基盤施設の安全性に関する技術や各種災害発生メカニズムとそれらに対する防災システム、及び環境動態の評価や緑化技術並びに都市・交通計画に関する政策分析システム等に関する教育研究を行う。	ホシステム工学	・水循環系の測定（流量・雨量・水位）技術および水循環評価モデルの開発に関する研究 ・都市域における水循環系の保全・予測技術の開発に関する研究 ・水環境に伴う地球影響評価システムの開発など	博士前期課程 (修士課程) 18人	H14年4月
	防災システム建設工学	・コンクリートおよびコンクリート構造物の性能・評価に関する研究 ・社会基盤施設の地震防災・ヘルスマモニタリングに関する研究 ・情報理工学の土木構造物への応用に関する研究 ・地震、活断層、火山活動などに被災する構造物の脆弱化に関する研究 ・内陸部地震の発生メカニズムに関する研究 ・岩盤・粘土・コンクリートの変位および破壊現象に関するメカニズムの究明と数値解析モデルの構築に関する研究	博士前期課程 (修士課程) 5人	H16年4月
	環境政策工学	・緑地および緑化額に関する研究 ・都市・交通計画策定のための政策分析システムに関する研究 ・過去の環境動態パラメータの復元と将来の環境変動や災害の予測に関する研究		
	環境政策工学			
○信頼性情報システム工学専攻 Division of Reliability-based Information Systems Engineering 社会的要求と情報革命の進展に伴う、情報化社会の高度化に対応するための実践的な情報システムの開発・研究を進めると同時に、情報システムが人間の活動や社会のシステムに普及に関与することから、信頼性の確保と同時に、これらを「文理融合」の概念で捉える先進的な教育研究を行う。	情報ネットワーク工学	・モバイル・マルチメディア通信ネットワークに関する研究 ・ネットワークを利用した情報システムに関する研究	博士前期課程 (修士課程) 24人	H14年4月
	感性情報システム工学	・感性にマッチするヒューマンインタフェース機構に関する研究 ・パターン情報と認識処理と高度化コンピュータインテリジェンスに関する研究 ・分散環境におけるソフトウェア開発方法に関する研究 ・課題解決型高度化システムの開発に関する研究	博士前期課程 (修士課程) 7人	H16年4月
	メディア電子工学	・生体組織・細胞レベルでの情報機能の可視化に関する研究 ・LEDを発光受光素子とした双方向通信と機能センシングに関する研究 ・産業用システム及びそのためのシステムソフトウェアに関する研究		
信頼性工学	・システムの信頼性確保・評価に関する研究 ・多変量統計解析の理論と周辺分野での応用に関する研究 ・大規模ネットワークシステムの信頼設計に関する研究			
○知能機械システム工学専攻 Division of Intelligent Mechanical Systems Engineering 安全で快適な人間環境を構築するための生活支援技術に関する教育研究を行う。具体的には、高齢化社会の進展に対し、人間の運動機能や感覚機能を工学的に解析し、機能の維持・改善を図る技術や体調の不具合を発生し、健康維持に努める携帯センサーなどの開発、また生産支援技術における、知能生産機器の産業化や地域を越えたネットワーク生産システムの開発などを行う。	自律制御工学	・パターン認識の産業応用、生活支援応用に関する研究 ・マンビジョンシステム及び非破壊検査に関する研究 ・画像認識及びコンピュータビジョンに関する研究		
	知能機械設計工学	・生体情報（認知、習得、運動）に基づく人間行動に関する研究 ・微小光素子の製造法とその応用に関する研究 ・機械運動学一般、およびロボット設計と制御への応用に関する研究 ・マイクロメカトロニクスによるインテリジェントシステム開発に関する研究	博士前期課程 (修士課程) 18人	H14年4月
	機械工学	・材料加工とシミュレーションおよびマイクロマシンに関する研究 ・マイクロマシン技術を基盤とした光スイッチなど高機能光デバイスに関する研究 ・シミュレーション技術応用による材料強度・設計・マイクロ機器開発に関する研究 ・半導体マイクロマシーニング・ナノマシーニングに関する研究 ・強靱と動的挙動の観点からの機械要素の信頼性向上に関する研究	博士前期課程 (修士課程) 5人	H16年4月
	機械工学			

専攻	研究分類	研究内容	入学定員	学生受入 開始年月日	
○材料創造工学専攻 Division of Advanced Materials Science 地球規模で問題となるエネルギー、環境マネジメントなどを見据えた新しい技術の展開に不可欠な新しい材料の研究・開発を行う。具体的には省エネルギー、循環型、環境適応などに必要な機能を持たした新素材の創造。また、物質の機能発現やデバイスとしての機能を「素機能」レベルから解析・具現化する教育研究を行う。	材料システム工学	・耐環境材料の開発及び特性評価に関する研究 ・機能性無機材料合成プロセスに関する研究 ・凝縮系における輸送現象等の量子過程に関する研究 ・有機・無機複合材料の電子状態と材料設計に関する研究 ・生命現象に影響を及ぼすバイオマテリアルに関する研究	博士前期課程 (修士課程) 18人	H14年4月	
	材料プロセス工学	・回折現象による微細構造解析に関する研究 ・表面における機能の評価と制御に関する研究 ・新世代構造材料の強度と微視組織制御に関する研究 ・新世代構造材料の成形プロセスに関する研究 ・半導体ナノ構造の作成と評価に関する研究	博士後期課程 (博士課程) 5人	H16年4月	
	材料物理学	・情報通信デバイスに関する研究 ・半導体先端デバイスの高性能化に関する研究 ・光機能材料の非線形光学特性に関する研究 ・電子材料の光応答特性に関する研究			
入学定員合計				博士前期課程 (修士課程) 78人 博士後期課程 (博士課程) 22人	

度の概算要求を行った。設置の必要性等を精緻化し、8月8日及び9月26日に文部省説明。農学部と一体化した構想案の可能性や校地問題等に関してやはり厳しい指摘を受けながらも、内外の熱い応援を受けて本年度予算で調査費（カリキュラム改革）が承認される感触を得て、11月25日の将来構想委員会で「工学部設置推進委員会」を設置することを決定した。委員構成は、これまでの作業部会委員を中心に教育学部、農学部からは学部長を含め各3名、経済学部からは学部長を含め2名、法学部からも全学の動向把握のために1名、学生部長はオブザーバーとし、学長が委員長となって全学の意思決定を速やかに行える体制とした。

平成6年12月13日、期待どおり文部省から本学に対して、本年度予算で「特別教育研究経費・大学改革推進等経費のカリキュラム改革調査研究経費」の中で「香川大学における工学系の教育・研究の拡充強化に関する調査研究」のための経費が配分された。

3.1.3 大学改革等調査経費獲得までの歩み

これを受けて平成6年12月16日、第1回工学部設置推進委員会（以後は設置推進委と略称）を開

表3 香川大学工学部・大学院工学研究科創設への歩み

昭和24年 5月	香川大学創設（工学部・経済学部） ・工学部＝香川師範学校（S18.4立学移管）＋香川青年師範学校（S18.4立学移管）の国立移管 ・経済学部＝高松経済専門学校（S19.4改称）；前身は高松高等商業学校（112.12設置）の国立移管	①田園都市への礎づくり ②明る／幸せな社会づくり ③活力に満ちた産業づくり ④個性豊かな地域づくり ⑤未来を担う人づくり
昭和30年 7月	農学部設置（農学、経済学）の国立移管	
昭和41年 4月	工学部設置（工学、経済学）の国立移管	
昭和42年10月	芸術工部設置構構（学長案）の検討 ・学友及び関係者で検討し、成果（3学科＋環境設計・産業造形・情報設計学科）を得たが、本格的議論は至らなかった。	
昭和43年 4月	大学院工学研究科（修士課程）を設置 計算機センターを設置（学内設置；I3.2.地理情報センターに転換）	
昭和46年 4月	経済学部に「管理科学科」を開設 ・経済学部、経営学、管理科学科（I3.4.「情報管理学科」と名称変更）の3学科体制	
昭和47年 4月	香川県が工学部の設置を提議 ・昭和47年度「香川県長期振興計画」において、「工学部の設置を提唱」し、国に要請。 ・初代工学部長・石川浩が本学商業短期大学部教授に兼任（京大助手・工学部機械工学科より転任）	
昭和51年 7月	香川大学の整備拡充。特に藤正規模・学部新設・研究教育の組織についての基本構想（整備拡充小委員会）を評議会で決定 ○「基本構想の概要」 ・総合大学を目指す。当面、中期5年（52～56年度）を策定 ・単独領域・専攻単位を中心とする総合型組織とする。必要に応じ、学際・学際型学部、学際型学部、学際型学部（I3.4.「情報管理学科」と名称変更）の新設を提案 ○「生物科学部設置構想の検討」 ・本学の整備拡充の基本構想として、生物科学部（基礎生物、生物物理、生化学コース）設置構想を評議会でも決定したが、本格的検討には至らなかった。	
昭和52年 4月	大学教育開放センターを設置 ・I3.4.1に生涯学習教育研究センターに改組	
昭和52年 4月	大学院経済学研究科（修士課程）を設置	
昭和52年 6月	56年5月 総合大学を目指す。当面、中期5年計画（52～56年度）であることから、57年度以降の総合大学へ向けての整備拡充案を決定 56年9月 評議会整備拡充小委員会に「整備拡充小委員会専門委員会」を設置	
昭和52年 7月	初代工学部長・石川浩が経済学部助教授（情報管理学科）に転換	
昭和52年 3月	整備拡充小委員会専門委員会が「本学の将来構想と地域問題について」を評議会に報告 ○「地域問題」の概要 ・既存学部（教育学部、法学部、経済学部）の整備拡充 ・新設工学部（総合科学的な工学部、生物科学部、経営学部及び理工系学部）を創設し、全体で8学部の新設大学を目指す ・工学部、工学研究科（修士課程）の設置を図る ・工学部はI3.4.1に併設する（商学短期大学、経済学部、大学院経済学研究科、大学教育開放センター、教育実践指導センター、農学部附属農場、同附属海城環境実験実習施設、計算機センター）の整備拡充を図る。 ・専攻領域・領域別施設等の整備拡充を図る。 ・科系別専攻領域ごとの必要に応じて施設づくりを検討	
58年 7月	香川県が「香川県立工学部設置構想（学長案）を評議会に提出 ○「数年間、単独で整備拡充に関する委員会を設け、 ・以て、前記に基き、香川県は毎年両側の要請を継続 ・「校地問題」及び「校地問題の当面の方針」の調査、2年間を以て短期（整備拡充小委員会）を評議会です承 ・「校地問題」の当面の方針の概要 ・中期、中期、中期の長期の調査 ・校地問題については、必要に応じ整備拡充小委員会において検討 ・理工系学部の設置について検討する ・本学の整備拡充の基本構想として、生物科学部の設置及び地域の要請が強い理工系学部（既存の学部）に因らぬ「新構想」の設置について評議会でも検討したが、成果には至らなかった。	
昭和60年 3月	木村亨、前経済学部長が香川大学長に就任（～I3.2.まで） 香川県が「香川県立工学部設置構想」を建設の地権者として 科学技術会議（議長＝内閣総理大臣）管轄に基き、政府が「科学技術政策大綱」を閣議決定	
60年 4月	大学院法研究科（修士課程）の設置 愛媛大学大学院連合農学研究科（修士課程）を設置 ・構成大学として香川大学農学部となる	
60年 5月	第4回構造物の安全性及び信頼性に関する国際会議（ICOSSAR'85）を開催（神戸国際会議場） ・会場3日間、参加数1,000人（国内468＋国外532）参加 ・実行委員長は石川浩、初代工学部長（当時経済学部助教授）	
昭和61年 4月	農学部改組（農学生産学系、生物資源学系、農工業学系） 香川大学の将来構想の策定に当たっての当面の方針（整備拡充小委員会）を評議会です承 ○上述の当面の方針の概要 ・校地問題）及び「校地問題の当面の方針」の調査、2年間を以て短期、中期、長期の将来構想を策定する ・整備拡充小委員会に「将来構想策定専門委員会」を設置し、「校地問題」の内容等を再検討する。 香川県が「第3次香川県国民福祉総合計画」の策定 ・平成2年度計画の策定 ・3大プロジェクト推進による単独発展の基礎整備 ・瀬田大橋の開通、新しい高松空港の開通、四国横断自動車道の整備推進	
61年 5月	香川県が「香川県立科学技術高等教育問題懇談会」を設置 ・懇談会に科学技術系高等教育機関のあり方に関する報告書を作成し、香川大学理工系学部の設置を提言。	
61年 6月	整備拡充等として、併発の高度化を促進し、建設の経済学、経営学、経営学、管理科学科を経済学部（経済学部）と併発情報学部一括移管する（経済学、情報科学科）に転換することを評議会です承。	
昭和62年11月	国際会議シンポジウムの開催（高松国際ホテル） ・会場：香川、中国、韓国、タイ等29国、国内386人と日本167人の研究者が参加 ・組織委員長＝岡本友利前学長（当時農学部長） ・議長＝石川浩（建設省）	
62年12月	第1回構造物の安全性および信頼性に関する国際シンポジウム（ICOSSAR'87；日本学術会議；東京） ・会場3日間、参加数1,000人（国内468＋国外532）参加 ・実行委員長は石川浩、初代工学部長（当時経済学部助教授）	
昭和63年 3月	「将来構想策定専門委員会経過報告（策定専門委員会）」を整備拡充小委員会に報告 ○上記経過報告の概要 ・策定に関する検討に欠けていた反省から次の事項を重点的に検討 ・既存学部、施設等（科学研究科の新設、教育学部、学内共同研究施設）の質的拡充を図る ・「全学的観点から、「共同研究センター」の設置	
63年10月	文部省が「工学教育の振興に関する調査研究協力者会議」を設置（文部省高等教育局長裁定） ・座長＝市川哲信（東京工業大学総合理工学研究所長（当時）） ・会議に基き、高度化する我が国産業社会に進展に対応し、大学における工学教育の問題点と今後の課題について調査研究	
平成元年12月	文部省の同上協力者会議が報告書「第2次産業の工学教育」を提出 ・工学系人材の需要における量的、質的インバースを提出 ・学部課程の目的と組織編成 ・学部課程の目的 大企業 → 主として基礎的知識 小企業 → 専門的能力を含めた幅広い多様な能力 ・学部課程の組織編成 ・学部課程では専門基礎となる大きな分野に分けて、学生が広領域にわたって勉強できるようにすることを目指す ・工学基礎としての「人工系の科学」に留意して、工学部系を再構築 ・「人工系人工システム設計・制作・運用」 ・基礎専門＝自然系の科学＋人工系の科学 例：計算機のハード・ソフトは自然と関係が深い。 ・大学の特長 ・工学教育の目的及び各課程における教育目的は極めて多様。従って、すべての工学が同一の価値観を有するものではない。 ・工学系専門分野を専攻的領域で全て取り扱えることは、特定分野に強い工学系学部・大学院の整備促進 ・分野の特長に応じて、教育あるいは研究への特化が好ましい。 ・「将来構想策定専門委員会経過報告（策定専門委員会）」を整備拡充小委員会に報告 ○上記経過報告の概要 ・既存学部の施設等の質的拡充 ・工学部研究科の新設、工学部研究科に基礎を置く総合大学院の創設等 ・各学部・学内共同研究施設（教育実践指導センター、農学部の附属農場、同附属海城環境実験実習施設、計算機センター、各学部）の整備拡充を図る。 ○「全学的観点から」の整備拡充 ・将来の理工系学部設置の核としての機能を果たした共同研究センターの設置を図る。 ・理工系学部設置の検討に当たっては、以下の4つの方向で検討する ・「情報科学系」の工学部 ① 人工系人工システム ② 人工系人工システム ③ 生物工（科）学系 ④ 理化学系 ・大学院改組センター、高松短大、付属農短期大学、学内保健管理センターの整備拡充	
2年 5月	香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成12年度（西暦2000年）を目標年とする県政運営の基本設計とし、県全体が計画の持つ「ゆとり」と「ゆたかさ」と都市の持つ「利便性」と「活力」とを兼ね備えた物心ともに豊かで、文化の香高い魅力ある「田園都市香川」の形成を目指すもの ○施策の5本柱 ① 田園都市への礎づくり ② 明る／幸せな社会づくり ③ 活力に満ちた産業づくり ④ 個性豊かな地域づくり ⑤ 未来を担う人づくり	
2年 5月	産業構造審議会90年代対策部会産業技術政策委員会 ・90年代技術政策委員会 ① 90年代の産業科学技術政策の指針 ② 産業構造の改善の促進 ③ 産業構造の改善の促進 ④ 産業構造の改善の促進 ⑤ 産業構造の改善の促進 ⑥ 産業構造の改善の促進 ⑦ 産業構造の改善の促進 ⑧ 産業構造の改善の促進 ⑨ 産業構造の改善の促進 ⑩ 産業構造の改善の促進 ⑪ 産業構造の改善の促進 ⑫ 産業構造の改善の促進 ⑬ 産業構造の改善の促進 ⑭ 産業構造の改善の促進 ⑮ 産業構造の改善の促進 ⑯ 産業構造の改善の促進 ⑰ 産業構造の改善の促進 ⑱ 産業構造の改善の促進 ⑲ 産業構造の改善の促進 ⑳ 産業構造の改善の促進 ㉑ 産業構造の改善の促進 ㉒ 産業構造の改善の促進 ㉓ 産業構造の改善の促進 ㉔ 産業構造の改善の促進 ㉕ 産業構造の改善の促進 ㉖ 産業構造の改善の促進 ㉗ 産業構造の改善の促進 ㉘ 産業構造の改善の促進 ㉙ 産業構造の改善の促進 ㉚ 産業構造の改善の促進 ㉛ 産業構造の改善の促進 ㉜ 産業構造の改善の促進 ㉝ 産業構造の改善の促進 ㉞ 産業構造の改善の促進 ㉟ 産業構造の改善の促進 ㊱ 産業構造の改善の促進 ㊲ 産業構造の改善の促進 ㊳ 産業構造の改善の促進 ㊴ 産業構造の改善の促進 ㊵ 産業構造の改善の促進 ㊶ 産業構造の改善の促進 ㊷ 産業構造の改善の促進 ㊸ 産業構造の改善の促進 ㊹ 産業構造の改善の促進 ㊺ 産業構造の改善の促進 ㊻ 産業構造の改善の促進 ㊼ 産業構造の改善の促進 ㊽ 産業構造の改善の促進 ㊾ 産業構造の改善の促進 ㊿ 産業構造の改善の促進	
昭和60年3月	3月「科学技術政策大綱」決定以来の情勢変化を踏まえ、今後10年間における科学技術の総合的基本方針について、政府が科学技術会議（議長＝内閣総理大臣）に諮問	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
2年 6月	昭和60年3月「科学技術政策大綱」決定以来の情勢変化を踏まえ、今後10年間における科学技術の総合的基本方針について、政府が科学技術会議（議長＝内閣総理大臣）に諮問	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための基礎整備 ・科学技術分野における人材の充実 ・科学技術振興のための環境整備	
平成3年 3月	岡本友利、前農学部長が香川大学長に就任（～H09.02） 香川県が「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 平成3年度～7年度までの5年間取組むべき主要な事業の概要を具体化 ○「3つの戦略」の概要 ① 快適公開空間の創造 ・人間の営みと自然の営みの共存、人間と自然の共生 ② 産業構造の改善の促進 ・本県産物ルート完成により一体的な地域とる県内交流圏の核となる香川づくりの ・「情報通信基盤の整備 ・地域情報化構想の促進 ・高松港地区の開発 ・広域観光・国際観光の推進 ・空港結核の基礎整備 ・ハイウェイネットワークの整備 ・カルチャーセンターの整備 ③ 明日を拓き支える人材の育成 ・学、地域社会、産業界と様々な分野で多様な優れた人材の育成と集結を図ると共に、県民一人ひとりがその持つ力を最大限に発揮できるように教育実践センターの発展に努めることにより、県民福祉の充実を図り、明日の香川の飛躍的発展を目指す ・産業高度化センターの整備 ・国際交流の拠点としての機能を有する施設の整備 ・「香川県立1次長官機構統一総合型香川市の形成を目指す」と策定 ④ 科学技術発展のための	

- ・若者の大都市志向を中核的都市において喚起、大都市圏への進学者の過剰集中を緩和し、県内出身学生との相互交流が可能なことに配慮
- ・専門分野横断
 - ・産業構造や社会の進化等によってもたらされる新たなニーズや学生の志向に配慮
 - ・教育・研究・文化・地域の活動を統合することで職にも対応
 - ・専門分野のバリエーションある発展が必要であるとの基本的方向性に整備
 - ・社会的ニーズや先端技術の進展に際しては学際的・学際的・学際的に対応
 - ・情報関係、社会福祉関係、応用技術関係等の分野を重点化
 - ・国際化社会の発展や先端技術の進展に伴う教育研究の推進の必要性
 - ・各地域の実情に応じて高度と専門分野のバリエーションある発展のため、以下の考慮が必要
 - ・特定分野の人事要請において必要に応じ地域別のバリエーションを考慮
 - ・同様の学部・学科等が未設置または社会的要請に比べて著しく少ない地域への配慮

平成 4 年 1 月 **科学技術会議（議長＝宮内閣総理大臣）が第 1 号答申「新世紀に向けての若き科学技術の総合的発展策案について」を答申**

昭和 59 年の基本法以降、冷戦の終結、地球環境問題の顕在化、さらには我が国の国際社会における国際的競争力と内外の経済情勢は大きく変化した。科学技術自体も、大規模化、高度化が進むと共に基礎研究の重要性も増大するもの変化してきた。

近年の民間部門の旺盛な研究開発活動に比べ、我が国の公的部門においては、国立試験研究機関を主体的に推進する体制が未だ確立されていない。

4 年 4 月 **閣上答に基づき、政府が新設「科学技術政策大綱」を閣議決定**

○3 つの目的

- ①地球環境と人間の共存
 - ・地球環境問題、エネルギー問題、食糧問題等の地球規模の諸問題の解決並びに安定した国際秩序の確立及び南北問題の解決を目指す。
- ②知的ネットワークの拡大
 - ・人間全体の利用に供されるよう、基礎研究の成果を初めとする質の高い科学技術の知識をバリエーションよく蓄積する。
 - ・安心して暮らせる潤いのある社会の構築
 - ・人口構成の急激な高齢化に備えるため、社会的な課題に適切に対応しつつ、質的に豊かな国民生活を享受する。
- ③7 つの重点施策の推進
 - ・科学技術と社会との調和の確保
 - ・既に応用された、普及している技術について、安全性及び人間・社会との適合性の向上を図る。
 - ・新しい技術について、必要に応じて、当該技術が人間・社会に及び影響を多面的に評価し、その結果をわかりやすい形で国民に示すよう努める。
 - ・国民が科学技術に関する知識を積極的に身に付け、使いこなせる土壌を培うため、科学技術に対する生涯学習の機会を増大、科学博物館等の整備、普及啓発活動の充実等を図る

- ④人材の養成及び確保
 - ・中高年世代の充実、普及・啓発活動の充実により、科学技術の発展を促す
 - ・青少年の育成
 - ・大学、高等専門学校及び修学学校の教育機能を拡充しつつ系統的に強化し、必要な人材を養成、大学院については、修士課程の定員拡大に努めると共に、博士課程の学生に対する経済的支援の一層の充実等により、博士課程の学生の定員の充実に努む
 - ・公共部門の要員を拡充
- ⑤研究開発活動の推進
 - ・民間の研究開発投資の一層の充実を支援するための制度改定や環境整備
 - ・政府の研究開発投資をできるだけ早期に併増
- ⑥研究開発活動の推進
 - ・先端的高度な研究を行うための施設・設備を大学、国立試験研究機関、特殊法人等に整備し、これを民間の研究機関に幅広く開放すると共に、共同利用を推進する
 - ・文献情報の流通促進、ファクトデータバンクの構築及び関係機関等により、科学技術情報の生産及び流通を拡大
- ⑦研究開発活動の推進
 - ・研究者の流動性を促進
 - ・基礎研究の活性化のため、競争的な環境の中で提供される研究資金を整備
 - ・国内外の優秀な研究者を誘引する優れた研究環境を整備
 - ・海外に研究資金の拠出、受け入れの促進、我が国における活動の円滑化
 - ・海外からの研究者を積極的に受け入れ、多様な形態の COE（卓越した研究指導者・最先端の研究設備・優れた施設・設備、充実した研究支援体制等を有する中核的な研究機関）を育成
- ⑧国際的な科学技術活動の強化
 - ・国際共同研究開発の積極的推進
 - ・メカトロニクス（大規模な施設・設備、広範な研究者及び技術者の取組が必要であるため、国際的な協力を必要とする）を中心とした国際共同研究の推進
 - ・国際的な共同研究の推進
 - ・効果的・効率的な国際共同研究の推進
 - ・人とを基本とする国際共同研究の推進
 - ・外国人研究者の登用・受け入れの促進、我が国における活動の円滑化
 - ・海外からの研究者を積極的に受け入れ、多様な形態の COE（卓越した研究指導者・最先端の研究設備・優れた施設・設備、充実した研究支援体制等を有する中核的な研究機関）を育成

○基礎科学的発展の推進

- ・新しい現象の発見及びそれを解明する理論の構築、未知の現象の予測等を目指す基礎科学的発展の推進
- ・以下のような重要分野の研究開発の実施・支援
 - ・基礎的・先進的な科学技術
 - ・情報・電子系科学技術
 - ・材料系科学技術
 - ・ソフト系科学技術
 - ・先端基礎科学技術
 - ・宇宙科学技術
 - ・海洋科学技術

○人間の共存のための科学技術

- ・地球・自然環境の保全
 - ・資源の開発及びリサイクル
 - ・食料の持続可能な生産
- ・生活・社会の充実のための科学技術
 - ・健康の維持・増進
 - ・社会生活環境の整備
 - ・防災・安全対策の充実

平成 4 年 6 月 「香川大学自己評価委員会」を制定

- ・香川大学自己評価委員会
 - ・委員長＝学長
 - ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
 - ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

4 年 7 月 各学部にて「自己評価委員会」を設置

4 年 9 月 **第 13 回 IEEE（米国電気・電子学会）半導体レーザー国際会議の開催**（高松国際ホテル）

- ・会場：高松、高松国際、参加者はドイツ、オランダ、フランス、イタリア、韓国、中国、台湾、香港、韓国、高松国際、参加者はドイツ、オランダ、フランス、イタリア、韓国、中国、台湾、香港、韓国、高松国際
- ・会場前日は、香川県産業技術財団との共同で科学技術フォーラム「21 世紀に向けての日本の科学技術」を開催し、地域の関係者等と連携
- ・香川実行委員長＝石川浩一、理工学部長（当時経済学部教授）

4 年 9 月 **マイケル・ピルソン研究賞（実行委員長＝長谷川誠二、賞状授与式）を開催（高松）**

- ・賞状授与式は、香川大学が主催し、日本個人間の研究賞を授与し、アジア地域が抱えている研究課題について交流
- ・実行委員長＝石川浩一、初代工学部長（当時経済学部教授）

4 年 12 月 **四国経済産業局が主催し「情報処理技術に関する大学院」の設置要望**

4 年 12 月 **第 11 回材料・構造技術シンポジウム開催（東京海上会館）**

- ・実行委員長＝石川浩一、初代工学部長（当時経済学部教授）

平成 5 年 1 月 **香川経済同友会が「県主催の下産業研究機構による理工系大学設立懇話会検討協議会」の設置を知事に提案**（1 月 2 日）

- ・会場：高松、高松国際、参加者はドイツ、オランダ、フランス、イタリア、韓国、中国、台湾、香港、韓国、高松国際
- ・会場前日は、香川県産業技術財団との共同で科学技術フォーラム「21 世紀に向けての日本の科学技術」を開催し、地域の関係者等と連携
- ・香川実行委員長＝石川浩一、理工学部長（当時経済学部教授）

4 年 9 月 **マイケル・ピルソン研究賞（実行委員長＝長谷川誠二、賞状授与式）を開催（高松）**

- ・賞状授与式は、香川大学が主催し、日本個人間の研究賞を授与し、アジア地域が抱えている研究課題について交流
- ・実行委員長＝石川浩一、初代工学部長（当時経済学部教授）

平成 5 年 3 月 **第 5 回 ITP（情報処理技術者）構築システム国際会議開催の開催**（四国電力総合研修所）

- ・会場：高松、高松国際、参加者はドイツ、オランダ、フランス、イタリア、韓国、中国、台湾、香港、韓国、高松国際
- ・会場前日は、香川県産業技術財団との共同で科学技術フォーラム「21 世紀に向けての日本の科学技術」を開催し、地域の関係者等と連携
- ・香川実行委員長＝石川浩一、理工学部長（当時経済学部教授）

5 年 5 月 **香川県「理工系高等教育機関に関する懇話会」を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

5 年 8 月 **香川経済同友会が主催し「情報処理技術に関する大学院」の設置要望**

5 年 10 月 **第 1 回特来懇話会委員会開催**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

5 年 10 月 **第 1 回特来懇話会委員会開催**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

5 年 10 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

5 年 10 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

5 年 10 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

平成 6 年 1 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

平成 6 年 3 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

6 年 3 月 「教育学部・教育学研究科 自己点検・評価報告書」

- ・香川大学教育学部・教育学研究科 返却の始期とその自己評価
- ・香川大学教育学部の現状と課題、をそれぞれ取り扱う

6 年 3 月 **文部省高等教育局が「大学の理工系分野の活力向上に関する懇話会」（議長＝長松実樹・前東京工科大学）を設置**

6 年 4 月 **4 年一貫教育のキャリアシステム体系の「職業教育」の枠組みを設け、全教官が各々の専門分野を基礎に、教養教育を担当**

6 年 4 月 **特来懇話会委員に「理工系学部設置構想作業部会」を設置**

- ・近藤浩二、教育学部長（当時）を中心に全学で組織
- ・プロジェクトチームの構成は、1 期「理工系工学部（仮称）設置計画書（案）」を検討
- ・近藤浩二、事務局長が責任（～H10.3）
- ・理工系高等教育機関に関する懇話会が「香川県理工系高等教育機関の整備に向けた提言」を知事に提出
- 3 つの目的
 - ・人間や生命への理工学分野の研究を積極的推進していくことを掲言
 - 関係が望まれる分野
 - ・機械（メカトロニクス）関係
 - ・電気・電子関係
 - ・情報（ハードウェア）関係
 - ・物質（バイオ・素材系、新材料）関係
 - ・環境関係

6 年 7 月 **平成 7 年度閣議要求で「理工系学部設置構想」を提出**

6 年 7 月 **香川県が「香川大学理工系学部設置促進委員会」を組織**

- ・県知事を会長に、県議、教育界、経済界等の代表により構成

6 年 7 月 **「大学の理工系分野の活力向上に関する懇話会（文部省）」を設置**

- ・委員長＝石川浩一、初代工学部長（当時経済学部教授）

6 年 8 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

6 年 12 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

6 年 12 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

平成 7 年 1 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 2 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 3 月 **文部省が「大学の理工系分野における創造的人材の育成のための学際懇話会」を設置**

- ・委員長＝石川浩一、初代工学部長（当時経済学部教授）

7 年 4 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

7 年 5 月 **香川県が「理工系高等教育機関に関する懇話会」に専門委員会を設置**

- ・委員長＝学長
- ・委員＝学部長、附属機関長、事務局長、学芸部長
- ・学術的な自己点検評価の実施、自己点検評価の項決定、報告書作成、公表等

	<ul style="list-style-type: none"> ・香川大学への理工工学部への設置促進及び設置に向けた積極的な取組、工業高等専門学校への ・地における科学技術の振興 ・科学技術に関する情報の提供及び情報の推進と関心の喚起 ・科学技術教育における理科教育・技術教育の充実 ・科学技術に關する多様な機会を創出 ・科学技術に関する情報の推進と関心の喚起
	<ul style="list-style-type: none"> ●8年 6月 26日(水) 文部省後援(専門教育課・設置事務室等) ●8年 7月 5日(金) 香川大学設置要求マニフェスト(文部省;事務局長) ●8年 7月 24日(水) 設置計画書を文部省へ打診
平成 8年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 「理工系学部設置準備案」を提出 ・増設準備室長を任命(石川浩教授(当時);経済学部より配置換え)
8年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 「理工系学部設置準備委員会」を設置 ・設置準備室を併用(室長:熊澤隆、藤井功・人事課長、倉持光雄・経理課長、香川智・施設課長、小坂一雄・学生課長が、本学に専任) ・理工学部外専門教官として若本雅夫教授を採用(経済学部情報管理学科)
8年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 法学部及び経済学部後に後進コースを設置(社会人の受け入れ開始)
8年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 香川県科学技術振興財団設立発起人会の開催 22日(火) 発起人会総会(香川大学、専門教育課、設置事務室等)
●8年 5月	<ul style="list-style-type: none"> 「理工系学部設置準備案」を提出(16年度設置予算成立、5月11日) ・設置準備室長を任命(石川浩・増設準備室長) ・設置準備室長を任命(伊藤寛・学務部長) ・各学部選出の教官(4名) + 学長指名者(4名) ・香川県知事 「理工系学部設置準備委員会」を設置 ・委員長=岡田友利学長(当時) ・委員=準備室長、各学部長、各学部の評議員+進出教官(各1名)、学長指名者、教養教育主管、事務局長、等 ・下部機関として次の専門委員会を組織 ・教員人事委員会(委員長=石川浩、副委員長=当時) ・教育・研究専門委員会(委員長=伊藤寛、教育学部長教授(当時)) ・施設・設備専門委員会(委員長=一色、工学部教授(当時))
8年 5月	<ul style="list-style-type: none"> 「工業高等専門学校在校生に対する香川大学理工系学部への編入学希望に関するアンケート調査」を実施 ・瀬戸内圏の高等専門学校 2校(在校生+5年生 約9,200人)
●8年 5月	<ul style="list-style-type: none"> 香川県が「(財)香川県科学技術振興財団」を設立 ・理事長=長谷川龍二(川島町立公園管理組合会長) ・副理事長=藤田隆雄(香川大学)
8年 6月	<ul style="list-style-type: none"> (社)香川経済同友会から香川大学に「理工系学部における編入学制度」導入に関する要望書の提出
8年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 香川大学理工系学部設置促進期成会による文部省への要望
8年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術会議が閣内閣第 3号「科学技術基本計画」についての手紙 ○研究開発推進の基本的方向 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな研究開発システムの構築 ・創造的な研究開発活動の展開のための研究開発システムの構築 ・各セクター間、地域間及び国際間の連携・交流のシステムの構築 ・最先端技術の発展 ・望ましい研究開発基盤の実現 ・科学技術に関する学生の育成と幅広い国民的合意の形成 ・政府の研究開発投資の拡充 ○総合かつ計画的な研究開発システムの整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・研究者等が研究支援者の養成・確保 ・研究開発システムの整備 ・各種評価の実施 ・研究開発基盤の整備・充実 ・研究開発施設・設備の整備 ・研究開発に関する情報化の促進 ・創発的基盤の整備 ・多角的な研究開発の拡充 ・競争的資金の拡充 ・多様な研究開発の推進のための重点的資金の拡充 ・基盤的資金の充実 ・私立大学における研究の充実 ・民間の研究開発の促進と官学の研究開発の成果の活用 ・民間の研究開発の成果の活用 ・国際的な交流等の促進 ・主権的・主体的な国際共同研究開発の推進 ・国際的な科学技術活動の強化のための環境の整備
8年 8月	<ul style="list-style-type: none"> 8月 9日 文部省(後援) 構成案 8月 9日 文部省、学校法人香川大学に香川大学理工系学部設置計画書を提出(7月末日) 8月 9日 文部省「理工系学部設置計画」を提出 8月 10日 文部省(後援) 構成案 ●8年 10月 18日(金) 編入試験開始による各学部募集(10月1日) ●8年 10月 31日(水) 設置準備室提出申請書提出 ●8年 11月 25日(月) 文部省前期一設設準備室補正書結果伝達(文部省専門教育課)
9年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 香川大学設置会の開催
9年 2月	<ul style="list-style-type: none"> 香川大学理工系学部設置促進期成会解散式
9年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 近藤謙二、前教育学部長が香川大学長に就任 「理工系学部設置準備案」を提出(4月1日) ・看板掛け替え ・工学部創設準備室を併合(石川浩教授) ・学内専任教官を採用(木村好次・前東大教授) ・学内専任教官の配置確保(30名) ・工学部創設準備室が不買品部局となる ・準備室長が部局長会議メンバー、評議会オブザーバーになる 「工学部創設準備委員会」を設置 ・委員=石川浩教授準備室長、各学部長、準備室教授、学長指名者、教養教育主管、事務局長、等 ・下部機関として次の専門委員会を設置 ・教育・研究専門委員会(委員長=伊藤寛、創設準備室長) ・施設・設備専門委員会(委員長=伊藤寛、創設準備室教授) ・学務専門委員会(委員長=木村好次、前設置事務室) ・工学部評議員委員会(木村好次、若本雅夫、横瀬潤司・伊藤寛教授)
9年 5月	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備調整会議(文部省文部教育課)において香川大学施設整備計画基本構想(案)が了承される。 香川大学施設整備計画基本構想(案)を記す発表
9年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 前期設置準備室長に石川浩、工学部創設準備室長を提出(6/27/97)(任期は、期10.1～期15.3.31)
9年 7月	<ul style="list-style-type: none"> 文部省(後援) 構成案
9年 8月	<ul style="list-style-type: none"> 文部省、学校法人香川大学に設置促進期成会による文部省への要望
9年 9月	<ul style="list-style-type: none"> 評議会において初代工学部長候補者として石川浩、工学部創設準備室長を決定(9/17/97)(任期は、期10.1～期15.3.31)
9年 10月	<ul style="list-style-type: none"> 「工学部」創設(10月1日) ・工学部設置準備室、設置事務室 ・工学部教授会設置、工学部教授会開催 ・初代工学部長を任命(石川浩教授) ・初代工学部長を任命(上原義孝教授) ・工学部評議員委員会(木村好次、若本雅夫、横瀬潤司・伊藤寛教授) ・工学部教職員・学生受付 ・工学部創設記念シンポジウム開催 10月17日 工学部創設記念シンポジウム開催
9年 11月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部学生募集要項公表 工学部推薦入試実施(小論文+面接;11/29/97)
平成10年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部学生受け入れ開始(後免2学科;予定)
10年 2月	<ul style="list-style-type: none"> 個別学力検査(前期日程入試)実施(2/25/98) 個別学力検査(後期日程入試)実施(3/12/98)
10年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部学生受け入れ開始(先免2学科)
平成12年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部第3年次編入学生受け入れ開始(先免3学科)
平成13年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部第3年次編入学生受け入れ開始(全4学科)
平成14年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 大学院工学研究科修士課程(全4専攻)を設置
14年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部学生受け入れ開始(全4専攻)
平成15年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 工学部後免1学科・学年進行完了
平成16年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 大学院工学研究科修士課程(全専攻) 学年進行完了
平成16年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 大学院工学研究科修士課程を拡充。大学院工学研究科博士(前期・後期)課程(全専攻)を設置
大学院博士(前期・後期)課程全4専攻で学生受け入れ開始	
平成19年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 大学院工学研究科博士後期課程(全4専攻)・学年進行完了

催、平成8年度の創設準備費の概算要求を目指して全学協力的の下に工学部は第5学部として設置推進すること、先発大学等へ調査団を派遣すること等を決定した。平成7年1月13日第2回設置推進委では、工学部設置に關係の深い学識経験者等との懇談会の開催や県の理工系学部設置促進期成会との連絡の緊密化、先発大学として島根・和歌山・九州工業大学への学内調査団派遣、構想案の見直しは情勢対応・自己努力・具体性の3原則に基づいて行くことを決定。1月24日第3回設置推進委では、空港跡地をキャンパスの第1候補地として工・農の2学部を併置、「環境アメニティ」「知能情報」「材料システム」「4番目の学科(検討中)」の4工学科(入学定員は各60人、計240人)で、各学部の学生定員振替可能数については早急に検討する。1月26日には平成8年度概算要求に関連した事前の文部省説明を行った。

2月17日開催の将来構想委員会、評議会で「工学部構想-その基本コンセプト」を了承。2月24日第5回設置推進委においては、先行大学の調査報告に基づき文部省説明資料を作成するための執筆委員として、石川浩経済学部教授(代表世話人)、一色泰農学部教授、伊藤寛教育学部教授の3名を選出、直ちに工学部設置構想案の作成作業に着手、「環境アメニティ」「知能情報」「材料システム」「生物」の4工学科より成る入学定員240人の「香川大学人間アメニティ工学部(仮称)設置計画書(案)」を作成したが、3月29日開催の第6回設置推進委で生物工学科設置に対する反対意見が農学部より出され、これを白紙に戻すとともに、残り3学科についてはさらに詳細に検討、また、各学部からの振替可能定員の検討を急ぐこととした。

平成7年3月30日、基本コンセプト、用地問題(香川インテリジェントパークへの設置計画)、工学

- ・全学各種委員会に正式メンバーを送致
- 「工学部創設準備委員会」を設置
 - ・委員長＝近藤尚二学長
 - ・委員＝石川副学長、各学部長、準備室教授、学長指名者、教養教育主管、事務局長、等
- 下部機関として次の専門委員会を設置
 - ・教員人事委員会（委員長＝石川浩・創設準備室長）
 - ・教育・研究専門委員会（委員長＝伊藤寛・創設準備室教授）
 - ・施設・設備専門委員会（委員長＝木村好次・創設準備室教授）
- ・10月1日 「香川大学工学部」創設
 - ・工学部発足届け、記念会費
 - ・工学部教授会設置、第1回工学部教授会開催
 - ・初代工学部長を委命（石川浩教授）
 - ・初代工学部事務長を委命（土原謙一准教授）
 - ・工学部評議員を委命（木村好次、若本雅民・横瀬廣司・伊藤寛教授）
 - ・工学部教職員へ給与交付
- ・10月16日 工学部創設記念式典・授旗式開催
- ・10月17日 工学部創設記念シンポジウム開催

部設置構想について文部省説明を行ったが、用地問題については大学の手持財源で行うのが大原則でその解決が何よりも先決であること、構想をまとめ具体化するキーパーソンの存在、学部名称の再考、地域ニーズを組み入れた斬新な工学部構想案の策定、新設学部はスクラップアンドビルドが原則であり、学生・教官定員の具体的振替数の提示、など種々の厳しい意見が出された。

平成7年4月1日貴田文久経理部長が着任（～平成9年3月31日）。4月7日第7回設置推進委で法学部長を委員に追加するとともに学科別会議委員を選出し、4月18日～4月21日にかけて最初の学科別会議。4月24日には企業等との懇談会を開催、地域ニーズを含めて詳細に意見聴取した。その後も学科別会議を精力的に開催して構想案を検討する課程で、知能情報関係については「知能メカトロニクス工学科」と「電子情報工学科」に2分する案が出され、これを5月12日開催の第1回将来構想・工学部設置推進委員会合同会議（以後は合同会議と略称。なお、これ以降は両委員会を合同で開催。）において了承、検討中の4番目の学科に代替した。その後、各学科別会議を合同して開催、5月19日、26日に合同会議を開催するなどして調整を進め、5月30日に文部省説明。6月2日に第4回合同会議を開催し、文部省指摘事項について至急回答する必要から、既設学部からの学生振替定員とそれに伴う各学部の改組案等について検討依頼した。

6月6日には県が平井城一知事を議長とする「香川大学理工系学部設置促進期成会」総会を開催。この席で岡市学長から、環境アメニティ（80人）、電子情報（60人）、知能メカトロニクス（60人）、材料システム（60人）の4工学科（計260人）から成る「香川大学工学部（仮称）構想（素案）」を発表、設置場所はインテリジェントパークが望ましいことを説明、大きな注目を浴びた。6月9日第5回合同会議

を開催、6月12日には石川執筆委員等が再度文部省説明。振替定員や学部改組についての具体的説明資料不足への叱声、国立大学並びに地方大学としての両視点の併存、広く国際的な人材の養成、社会科学系を十分に取り入れた革新的な特色ある工学部構想、説明事項への数値的裏付けの欠如等の指摘があった。これを受けてさらに熟慮を重ねて設置計画書（案）を加筆修正し、「材料開発（60人）」「知能メカトロニクス（60人）」「人間情報（80人）」「環境創造（60人）」の4学科（第3年次編入定員20人を含んで計280人）より成る「香川大学創造工学部（仮称）設置計画書（案）」を作成、検討中の入学定員の振替（臨増分を含む）や既設学部の再編整備の概要をも盛り込んだ補足説明書を準備して、6月21日再度執筆委員等が文部省説明に赴いたが、構想案の魅力、定員振替や既存学部の再編・整備の具体性等の観点からやはり厳しい指摘や意見を頂戴した。

6月23日、7月7日と合同会議を開催。これまで検討してきた「和歌山方式（新学部創設；A案）」を第1案としながらもさらに「島根方式（既設学部改編・新学部設置；B案）」やその他のC案の可能性についても検討することとした。7月21日、8月7日、8月18日と断続的に合同会議を開催、A案について引き続き文部省の指摘に沿った構想案の検討を執筆委員を中心に進めるとともに、キーパーソンについて引き続き適任者を当たり、候補者として東京大学生産技術研究所原島文雄教授（前所長）の内諾を得て、9月12日の合同会議で本学併任教授として本合同会議に迎え入れることを了承。併任教授のポストについては教育学部に依頼し、10月1日発令の措置がとられた。キーパーソンの決定に合わせて、9月22日の第13回合同会議では執筆委員の拡充を考え、原島教授と従来の3人の執筆委員に加えて、教育学部秦清治教授、農学部山下進教授を新たに執筆

委員に追加し、設置推進委の委員ともした。また、執筆委員会を設置推進委の「小委員会」とし、石川教授を委員長（代表世話人）として原島教授と緊密な連携を取りながら作業を進めることとした。キーパーソンの決定をはじめねばり強い努力の結果、9月29日付、平成7年度予算で「大学改革等調査経費」が本学に配分された。また、10月1日小杉信行主計課長が本学に着任（～平成11年3月31日）。

3.1.4 工科系学部創設準備経費獲得までの歩み

平成7年10月4日原島教授を初めて本学に迎え、最短距離での創設準備経費獲得に向けて小委員会は一丸となって精力的に活動を開始した。これまでの文部省の指摘事項等を熟慮し、斬新な発想による設置構想案スケルトンの作成作業を進め、10月20日の第14回合同会議には検討結果を中間的にまとめた「香川大学創造システム工学部（仮称）構想（案）スケルトン」を提出・了承され、これに基づいて原島教授同道の下に石川委員長が10月30日に文部省説明を行った。これに対して前向きの評価を受けつつもなお、文系を含めた幅広い専門教育を行うための教官組織や教育システム、構想案のキャッチフレーズ、全学を挙げての協働体制、新学部創設伴う具体的な学生・教官の具体的振替数と既存学部の改編・変革案の可及的速やかな提示、先進大学に倣ってタイムスケジュールの厳守、などの要望を受けた。

11月6日開催の高等学校長等との懇談会での意見等をも踏まえて、小委員会は11月6日、15日、20日、22日、24日と深夜に至る検討を重ね、「文理融合（文系を取り込んだ工学）」という視点から「香川大学創造システム工学部構想（案）スケルトン修正版」の素案を作成した。この修正版は、11月27日開催の第15回合同会議で了承され、合わせて既存学部の改組・再編について各学部で至急検討することとなった。

12月7日、「香川大学創造システム工学部（仮称）構想（案）スケルトン修正版」を基に文部省説明。文理融合を理念としたこの構想は、学部レベルの教育の見直し、総合的教育指向という観点から十分評価できる、グローバル化という視点で非常によくまとまっている、などと非常に高い評価を受けたが、入口・出口を含めた具体的な資料に基づくニーズの

議論、既設学部の改組・改編の具体化などが要請された。合わせて、既設学部改組のコンセプトは工科系学部創設要求時に同時に必要となるが、実際の改組要求はその1年後でよいことも示唆された。

12月23日、平成8年度政府予算案の復活折衝により本学に「工科系学部創設準備費」が認められ、同日、岡市学長が記者発表で「安全システム建設」「信頼性情報システム」「知能機械システム」「材料創造」の4工学科構想を明らかにし、用地は県が提供を表明している香川インテリジェントパーク西端（5.24ha）が最有力候補との考えを示した。

3.1.5 工学部創設準備経費獲得までの歩み

文部省指摘事項等に対して小委員会では真剣に対応し、財政当局を説得できる新学部設置構想の具体化に全力を傾注して取り組み、平成8年1月19日第17回合同会議では「香川大学創造システム工学部（仮称）設置趣旨（概要）」が了承された。また、工科系学部創設準備に向けた関係規程整備のための原案を提示、今後検討を加え、2月2日の部局長会議で各学部を持ち帰り、3月1日の部局長会議、3月15日の評議会で審議・決定した。

この間、県は1月23日に香川県科学技術振興財団（仮称）の設立準備委員会を開催、席上、岡市学長から同構想案の説明等を行った。また、1月29日には県議会理工系高等教育機関整備促進特別委員会の関係者が来学した。

平成8年1月26日、県実施のアンケート結果に基づく入口・出口のニーズ、学部改革・改編について文部省説明。指摘事項は次の8項目。①直近の企業や高校生（特に低学年）のニーズを正確に把握するため、大学独自にアンケート調査を行う必要がある。財政当局等に工科系学部設置の必要性を説明する上で重要であり、4月中にはデータの整理をしてもらいたい。②3月までにソフト・ハード両面がある程度固まっていないと最短（平成9年10月設置、平成10年4月学生受入）は難しい。③最短で行ったとしても、学生受入は現在構想中の4学科全てが同時ではなく、2段階に分けて行うことになろう。どの学科を先行させるかは基本的には大学の判断によるが、定員措置が少なくて済む方を念頭に置くこと。④教員の採用等に絡んで設置審としては7月末

に關係書類の提出，8月に教員審査となる。⑤事前の打合せが必要であり，2月中には説明が欲しい。その時，どの学科を先行させたいか大学の考えも併せて伺いたい。⑥学部名称についても再検討の必要がある。⑦既設学部からの振替・組織などについては年度内のできるだけ早い段階で各学部の構想を持参すること。⑧この学部が設置されると世間の話題になるので，文部省としても教育システム等を勉強していきたい。

2月2日，2月16日と合同会議を開催。関係規程，入口・出口のアンケート調査，教員の採用等計画，既設学部の改革・改編について審議。3月5日，既設学部の学部長等が文部省に赴き，工科系学部に関連した既設学部の改革・改編について説明，さらなる具体案の提示が求められた。3月15日第20回合同会議を開催，各学部の改組計画(案)の検討状況，工科系学部の教育システム(案)，出口・入口に関する企業・高校生に対するアンケート調査結果等について報告・了承。また，4月1日付け設置予定の工科系学部創設準備室の室長候補者として石川浩経済学部教授を選出，同日開催の評議会でも了承された。3月22日第21回合同会議を開催，室長候補者を4月1日付け設置予定の工科系学部創設準備室の専任教授(創設準備室長用)に配置換えすること，創設準備室開設記念シンポジウムの開催，工科系学部創設に向けての香川大学懇談会の開催を了承した。

残念ながらこの年は政府予算の国会審議が長引き，新年度に入っても予算が未成立のため，平成8年4月1日，「創設」を「増設」と読み替え，学内措置により工科系学部増設準備室(準備室長：石川浩教授)を設置，増設準備室員を併任発令し増設準備室教官会議を発足させるとともに，工科系学部増設準備委員会(委員長：岡市友利学長)，教員人事委員会(委員長：石川浩準備室長)，教育・研究専門委員会(委員長：伊藤寛教育学部教授)，施設・設備専門委員会(委員長：一色泰農学部教授)を設置し，創設準備作業を継続・推進することとなった。また，諸橋輝雄事務局長(～平成10年6月30日)，香川智施設課長(～平成12年3月31日)及び香川徹庶務課長(～平成10年9月30日)がそれぞれ着任，それぞれが剛腕を発揮する。4月8日第1回工科系学部増設準備委員会を開催。4月23日には，「香川

大学創造工学部(仮称)設置要求説明資料(案)」に基づき，設置趣旨，教育システム，入口・出口に関する企業，高校生に対する本学のアンケート調査結果等について文部省へ説明。①香川大学全体の計画，とりわけ既存学部の改編計画の早急な提示，②学部名称の再検討，③安全システム建設・信頼性情報システムの両学科名称についての簡明な説明，④第3年次編入については単なる数量的な入口議論のみならず，受入れ後の学生教育の仕組みをカリキュラムに反映させること，⑤附属教育研究施設の精選や設置時期の工夫，⑥学生定員数の考え方についての簡明な説明，⑦学生及び教官定員の学内振替数の確定，⑧学生受入は学年進行で2段階に分けて実施，先行学科を2学科もしくは3学科とする2ケースが考えられること，などの指摘や要望を受けた。

4月26日第2回工科系学部増設準備委員会を開催し，学部名称を簡潔に工学部とした「香川大学工学部(仮称)設置要求説明資料(案)」について説明。振替定員関係については各学部長と再度調整し，事務的に文部省と調整した上で，文部省折衝を進めていく。さらに，学内移籍希望教官の確定について審議。5月10日には第1回工科系学部増設準備室教官会議を開催。

平成8年5月11日に平成8年度の政府予算が成立，これまでの「増設」を「創設」に戻すとともに，「工科系学部創設準備室」の設置並びに看板掛けと記者発表を行った。5月17日には第1回将来構想委員会・工科系学部創設準備委員会(以後，合同会議と略称)を開催。概算要求へのタイムスケジュールから，工学部(仮称)への学生及び教官定員の学内振替数について，学生定員の学内振替数は教育学部(60人)，法学部(10人)，経済学部(60人)，農学部(40人)の計170人，また教官定員は教育学部(12人)，法学部(2人)，経済学部(9人)，農学部(12人)，創設準備室(1人)の計36人とすることを原案に審議し，工学部(仮称)の学科別・講座別配置定員(学生定員，教官定員)及び学内振替数のうち学生定員については確定，教官定員の学内振替数については教育学部・経済学部は確定し，法学部・農学部については個別に調整することとなった。また，学生受入は，安全，信頼性，知能の3学科が平成10年度から，材料創造工学科は平成11年度から行

うことを決定した。次に、工学部の教員人事については、学外教員採用候補者を内定するとともに、5月24日～26日にかけて面接を実施。また、学内移籍希望教官についても各学部長に確定依頼がなされ、同様に5月30日に面接を実施した。

5月21日～30日にかけて、瀬戸内圏の高等専門学校12校（在校生1～5年生、約9,200人）に対してアンケート調査を行い、第3年次編入学についてのニーズを聴取した。

5月22日石川準備室長、原島教授等で文部省説明。大学側から、「香川大学工学部（仮称）設置要求説明資料（案）」「同補足説明資料」に基づいて、安全システム工学科及び信頼性情報システム工学科の名称、学生定員数の考え方を含めて詳細に説明し了承を得たが、学生および教官定員の学内振替についての具体案、既存学部の改組・改革案について再度要請された。

5月21日、22日の両日、既存学部の改組・改革（案）について、各学部長が文部省へ説明に赴き、種々の意見を聴取した。5月24日第2回合同会議を開催。文部省説明の結果を報告。また、工学部（仮称）の学科別・講座別配置定員（学生定員、教官定員）及び学内振替数のうち教官定員の学内振替数について未定であった法学部、農学部についても原案どおり確定した。

6月3日、6月14日と工科系学部創設準備委員会（以下、創設準備委と略称）を開催。平成9年度の工学部（仮称）創設の概算要求を審議するとともに、学外から採用予定の教員採用候補者を了承、設置審査関係書類の提出依頼を行うとともに、学内移籍予定教官や教養教育担当教官の推薦依頼及び個人調書等の作成を依頼した。

6月26日文部省説明。大学側より、「香川大学工学部（仮称）設置要求説明資料」の修正及び変更箇所、第3年次編入学希望について、瀬戸内圏の工業高等専門学校生へのアンケート集計結果と香川県経済同友会の要望書、客員教授についての要求理由、教育システム等について説明。これに対して文部省側は大筋で了承。また、各学科別に人材養成の話題等（例えば、新聞記事、国の審議会答申・提言等）を収集して7月中に提示して欲しい旨、依頼を受けた。6月28日第5回合同会議を開催。文部省説明し

た「香川大学工学部（仮称）設置要求説明資料」について、香川大学の概算要求（案）として本日開催の評議会に提出することを了承。

以上のように全学一丸となった協力の下に、6月末には平成9年度概算要求で「工学部（仮称）創設準備費」の要求書を提出。「安全システム建設工学科（60人）」「信頼性情報システム工学科（80人）」「知能機械システム工学科（60人）」「材料創造工学科（60人）」の4学科構成で総入学定員は計280人（第3年次編入学定員20人を含む。）である。

7月4日には、香川大学科学技術フォーラム'96（第1回）を開催、以後、毎年開催することとした。7月5日には文部省で香川大学概算要求ヒアリング、7月19日には第6回合同会議。既設学部の改組・改革（案）について検討するとともに、工学部（仮称）の設置用地については、空港跡地を候補地として文部省と協議を進めていること、埋蔵文化財発掘調査を県において行う。7月24日には、「香川大学工学部（仮称）設置計画書（案）」を文部省へ打診の後、7月末日に提出した。8月には大学設置・学校法人審議会（以下、設置審と略称）における審査、8月23日第7回合同会議。平成9年度の概算要求において香川大学工学部（仮称）の創設を要求することに決し、その施設整備については「空港跡地5.24ヘクタールでの計画を承認する」方向であることが文部省から非公式に伝えられたのを受けて、「空港跡地」を工学部（仮称）の設置用地として今後の施設整備を進めていくことを了承。なお、文部省の指示もあり、当面の施設整備については、必要な面積を借上げて進め、設置用地借上げの問題については、文部省と協議の上、香川県及び（財）香川県科学技術振興財と折衝を行う。本学としては、これまで「空港跡地」を第1候補地としてきたが、今後はこれを「工学部（仮称）用地」と正式に決定して、施設整備その他の準備を本格的に推進していくことを了承した。

8月28日に文部省の記者発表が行われ、その後、文部省から平成9年度の概算要求で「香川大学の工学部の創設」が盛り込まれた旨の連絡を受けて、関係方面へのお礼参りを行うとともに、9月5日に部局長会議を開催しその内容報告を行い、同時に岡市学長が、石川準備室長、諸橋事務局長同席の下に香

川大学としての記者発表を香川県教育委員会記者クラブで行った。

9月12日には設置審専門部会の教員審査結果の伝達を受け、付帯意見に対して直ちに10月末日までの補正申請への対応を開始した。9月17日、20日開催の創設準備委で、工学部キャンパスの建物配置計画の基本となるゾーニングや平成10年度の工学部入学試験実施計画（案）を了承するとともに、教員補充人事について審議・決定した。

10月2日設置審の実地審査が、堀川清司主査委員（埼玉大学長）並びに小坂二度見委員（岡山大学長）を本学に迎えて行われた。審査結果の講評では、①設置審専門委員会からの意見に対して確実に対応するとともに、10月末までに文書（補正申請）で報告、②既設4学部の新設による工学部の新設、学内移籍の事情は理解できるが、今後、大学院（修士課程、博士課程）設置までのプロセスで、工学部設置の趣旨・目的の実現に向けての努力を引き続き設置審としては継続注視、また、大学院教官（教授・助教授）には博士学位の保持が必要であり、将来に向けた努力、積極的な対応による体制の整備を図ること、③キャンパスの分極化問題については今後さらに検討、④第3年次編入については、計画どおり実施（学部一括で20人）できるよう募集方法、各学科への配分方法等の検討、⑤附属図書館の工学部分館設置を予定しているが、是非実施願いたい。なお、図書館業務は電子化が進み、図書館職員には高度な技術と専門的な知識が要求されるため、情報系教官の協力のもとに職員の再教育を実施すること、⑥工学部創設に伴う新たな事務職員の配置については厳しい状況があり、事務組織の問題は今後の全学的な課題として検討すること、等が口述伝達された。この実地審査に際しては、石川創設準備室長を中心に関係者全員で、表5に示すように、考えられる限りの想定問答集を考え、真剣に対応したのも今は懐かしい思い出である。

10月7日、15日に創設準備委を開催。施設配置計画（案）、空調設備計画（案）、平面計画（施設・設備計画）、工学部校舎の学科配置計画（案）などを決定。また、工学部の入学試験実施計画（案）、教育課程（案）を決定。同時に教員補充人事について、教員人事委員会の審議結果及び設置審専門部会の意

見に対応した教育課程の変更修正について了承。

以上の審議を経て、設置審からの意見へ対応した補正計画書を作成、10月31日に文部省に提出。11月に設置審専門部会で審査が行われ、11月25日にその審査結果の伝達を受けたが、本学の対応については、特に新たな意見等もなく概ね了承された。11月27日第12回合同会議を開催。学内移籍予定教官を確定した。学内移籍予定教官は平成9年度概算要求が認められた場合、平成9年度予算成立後（通常は平成9年4月1日）に工学部創設準備室所属の専任教官として学内移籍し、平成9年10月1日に工学部が設置されると同時に、工学部所属の専任教官となる予定。また、旧所属学部の併任教官として、基本的には平成9年度までに入学した旧所属学部の学生の教育（授業）を担当する。また、工学部に必要な教官研究室、講義室等を確保するための具体的な計画（案）が必要となるので、施設・設備専門委員会でも早急に検討し、創設準備委へ報告すること、なお、計画（案）作成には、関係部局との調整が必要なため、施設・設備専門委員会に附属図書館長、商業短大部長、教養教育主管、教育・研究専門委員会委員長を加えたメンバーで検討することを了承した。

12月4日第1回学内移籍予定教官会議を開催するとともに、12月11日には第1回創設準備責任者会議を開催し、創設準備作業を効率よく的確に推進することとなった。12月24日には大臣折衝が行われ、平成9年度政府予算に待望の「香川大学工学部（仮称）の創設」が盛り込まれ、直ちに、地域の関係者にお礼回りをを行った。

3.1.6 工学部開設までの歩み

平成9年1月10日第13回創設準備委において、今回認められた工学部（仮称）の創設の内容説明。平成9年10月1日に工学部（仮称）の創設、学生定員合計260人のうち170人については、既存学部からの振替であり、第3年次編入学生定員20人は平成12年4月学生受入予定。教官定員等はすべて振替で教授△14人・14人、助教授△14人・14人、助手△8人・8人、事務官等△1人・3人。また、創設準備等経費、開学等経費についての金額の内示はなし。平成10年度以降の学年進行計画については、現時点では未定、今後文部省と折衝を行っていくことになる。ま

4. 学 生

4. 1 学生確保の見通しについて問う。

- 収容力が小さいため優れた高校卒業生の流出が多く、質的な確保は問題ない。
- 質的に良い学生の確保は問題である。私学をまわって、いろいろな施設を考えた。良い学生確保のために、工学系大学のソフトと大卒後の教育、卒業後の就職や仕事遂行のサポートの面で、教員が努力し、汗をかく覚悟が必要である。私学を見習う。
- 例えは、文理融合の理念を生かして、高校で文系教育を受けた学生の中から優秀な学生を工学部に取り込む。
- 現在、地元の子供の新しい工学部にたいす期待は大きいと思われる。この期待を裏切らぬよう、ますます増大させたい。

4. 2 価値観教育のなかで、良い学生を集められるか。

- 新卒な教育研究システムの構築、学内外への周知活動の徹底など、長期的視点に立って、教員全員の努力により、知名度を高め、良い学生を集める。

4. 3 学生のキャンパス間の移動はどうするか。教員上の配慮について問う。

- 頭の痛い問題である。
- 当面は次の方策しかない：
 - ・ 教員が移動する
 - ・ カリキュラム編成で学生移動を少なくする
 - ・ マルチメディアの活用による遠隔授業
 - ・ ツールボックスを運営する
 - ・ 公共交通機関の活用
- 長期的には新交通システムの導入が望ましい。新工学部と既存学部には都市計画や交通、エネルギー、環境問題などの専門家を擁している。この専門家を結集して、高松市の新交通システム検討提案プロジェクトをつくりたいのである。
- 基本的な授業日程では、教員の授業曜日と専門の授業曜日を分け、移動を不要にするよう、授業編成を行う。また、単位交換制度については取れなかった場合の再履修に代って、履修時点で、昼休み以外でのキャンパス間移動が無いよう、確保する。
- 工学部は前のインターパークの中心にあり、パークが完成されるに促い他の施設との関係で今後交通事情は改善されるものとする。
- 学生の居住空間を併用可能な林地区の間に想定する場、両キャンパス間の距離はそれほ離れたものでは無い。
- 現行40分の登下校時間を50分から1時間程度に延ばせば移動は更に改善される。

4. 4 学生の就職は大丈夫か。

- 県内企業へのアンケート調査結果からみて、就職先の確保に問題はない。
- 地域との連携力等を通して、教員が全員で一層努力したい。

4. 5 3年次編入生について

- ①学生確保の見通しについて問う。
 - 問題ないと考える（アンケート結果より）。
 - 多様化する教育システムに対応し、フレキシブルな受け入れ態勢の確立と履修モデルの構築を行い、積極的な受け入れを図る。
- ②既修単位の認定方法について問う。（回答省略）
- ③学生は、2年間で卒業できるのか。
 - カリキュラムは卒業できる。ただし、学生と教員の双方の努力が必要である。

5. 施設・設備

5. 1 世界を舞台に活躍できるようなコミュニケーション能力を高めるとしているが、現行のL1教室だけで足りるのか。

- 本学部では、コミュニケーション能力として、英語力、プレゼンテーション能力、マネジメント能力、情報リテラシーを養成できる能力を養成する。このうち、L1教室は、英語力の養成に役立つものであるが、上記の全ての能力を育成のためには十分である。プレゼンテーション能力の育成のためには、OHP、パソコン、AV機器、高精細プロジェクションTV、そしてそれらを統合する情報ネットワークなどを駆使しての自己の主張の表現力が求められる。これは単にプレゼンテーション能力の育成のためには必要とされるわけではなく、当然、学部で行われる全ての授業自身がプレゼンテーションの構成となる物と見なければならぬ。そのため、教員にも十分な能力が要求されるわけだが、施設面でも上記機器をそなえた多数のAV演義室の整備が必要となる。このため、無線LANなどを整備し、学内あらゆる場所から学内、学外、そして世界の情報ネットワークへ自然にアクセスできればならない。このための十分な設備環境を自然に体感出来る施設が求められる。
- 現在のL1教室の使用状況
 - 工学部生の使用計画
 - 語学教育システムについては工学部だけでは解決されず、香川大学としての将来計画が必要となろう。情報教育もむしろ。

5. 2 技術の完成はいつ頃になるか。

- 学生受け入れと同時に校舎の完成が期待される所ではあるが、諸般の事情から、平成11年度中の完成を目指して努力中である。

5. 3 その間の教育(特に実験実習関係)はどうするか。

- 大きな難関の一つである。実験実習では、各学科共通にプログラミングが1年次に、機械計測や電気回路実験など専門的なものが2年次から準備される。現在は、プログラミングについては、計算センターや各学部の実習施設を共同し、実施するは無いが、教員教育との時間配置の高さ、かなりの工夫を要することになる。
- 専門的な実習、実習は、標準的は3年次から各学科の授業を4セメスターに渡って履修することになっているが、出来るだけ実験実習以外の授業を先行し、3年次以降に実験実習を配置することで対処することになる。その際、最低限、経験+実習は、近隣の企業に見学に行くなどで体験させたい。
- 教員教育確保は既存の施設が使用できる。2年生後期からは林地区の教室が使用可能

5. 4 その間の教員研究室および実験室は、どうするか。

- 新任教員の研究室は絶対的に不足するし、半町キャンパスは元来文系のキャンパスであることも有り、実験室も配置できない。このため、最終的には、学内合意の元、グラウンドや空地に教員研究室、実験室を仮設することになる。

5. 4 図書館

- ①工学部には、分館を置くのか。
 - 跡地の通りである。
- ②図書館の検索方法、学内ネットワーク等、情報化への取り組みについて問う。（教員研究室の図書も一括管理しているのか。）(回答省略)
- ③図書館等の選定方法について問う。（教員の意見の反映方法）(回答省略)
- ④教員研究室の図書の検索、貸出方法はどうか。（回答省略）
- ⑤開館時間について問う。
 - 24時間利用できる運営としたい

6. その他

- ①地域との連携を強固しているが、具体的にはどのようなことを考えているのか。
 - 地域との連携は、教育面、研究面の両方で考えている。教育面では、社会人教育(学部レベルでは学士編入、大学院開校後は、社会学士編入)、教育研究受け入れ、社会人受け入れ、教育研究受け入れ、社会学士編入の実現の為に、学部の基本理念を体現する工学部理解やコミュニケーション能力などのうちのいくつかを、3年次以降でも取れるようにする。などの便宜を図る。研究生としての受け入れも、すでに既存学部で制度化されており、問題ない。
 - 研究レベルでの交流は、委託研究などの形で実施される。工学部が無かったこれまでも地域との共同研究は約数十件実施されているが、工学部の発足により、これが加増されると思われる。これらの共同研究では、特別な申し渡もなされておらず、専断で実施を受けている。
 - また、香川大学に事務局を置く学会研究会も、現在複数設置されており(例：精密工学会知能メカトロニクス専門委員会、電気学会知能環境におけるパターン認識応用専門委員会、など)、最先端の研究成果を全国会員を含む幅広い企業に紹介している。国際学会や国内ワークショップも毎年1回に1回の頻度で開催されており、これらの活動もより活発化する。ちなみに本年7月英属の知能メカトロニクスワークショップでは参加者140名中、四国地域参加者30名であり、地域への十分な還元を行うことが出来た。
 - 今後、工学部としては、地産地消研究センターや知能メカトロニクス研究センターの設置を強力に推進し、工学部開設予定地のサイエンスパークに隣接する四国工業技術研究所、産業顕微鏡センター、高温高圧流体研究所ほか、近隣の香川県工業技術センター、四国総合研究所など共同プロジェクトを実施、強力な地域研究集団の核となる事業を目指す。

②自己評価・外部評価についての考えを問う。

- 自己評価や外部者による評価の受け入れ等の制度を導入し、教育研究の充実・活性化を図る方向で検討している。

③教育研究活動の活性化のため、特に注力しようとしている試みはあるか。

- 工学体系が巨大化し、個々の教員の孤立した研究のみでは、アイデアの提示程度にしかならなくなっている。この原因を解消した取組を行い、研究活動を活性化するためには、教員間の研究方面を併せてのプロジェクト研究を推進する事がまず第一であり、制度面、運営面でも積極的な支援を行う。
- また、学部単位で、プロジェクト研究推進の為の研究運営体制が取られるべきであり、この方法としては、大阪大学などで行っている学部単位での研究会(例は、知能メカトロニクス研究会)を組織し、学会研究会形式で、地域企業にも公開し定期的に研究会を行い、相互評価する、などの施策を取りたい。
- もう一つの面白い試みとして、和歌山大学では、光メカトロニクス工学科が、学科教員全員で分担して、光メカトロニクスの入門書を執筆、発定したが、これは是非実施したい試みである。
- 学生受け入れまでの期間を利用して、モデル授業を通じた授業内容の関連性の強化、相互評価による内容充実などを通じて、前設理念の実現を目的とした教員の意識の統一を図りたい。
- 教員の学会活動と授業との両立を図るため、複数の科目を連携させて履修し、休講を避ける等の試みを行った。
- 特に、地方での研究教育の活性化のためには、定期的な研究会、ワークショップなどが気軽に持てるような予算配当、基金等を学部として確保する。
- 教育上では、学生が生き甲斐を持って取り組むことができるような、学内行事を企画する。たとえばH1Tのロボコンファクトスの様なものを学部ごとを考える。

④学生の理工系離れ対策について問う。

- 理工系離れは、量の問題ではなく、質の問題である。
- 私学をまわって、質の良い学生を確保する施策を考えた。
- 例えは、文理融合の理念を積極的に生かして、高校で文系教育を受けた学生の中から優秀な学生を工学部に取り込む。
- 例えは、地元の優秀な学生を取り込む。
- 地元の子供の新しい工学部にたいす期待は大きいと思われる。この期待を裏切らぬよう、ますます増大させたい。
- 大学開放行事
 - ・ 研究室紹介
 - ・ 講演会
- 参加実験などの各種行事を系統的に行い、地域に大学を開放すると同時に、直接物に触れさせることにより青少年の科学技術に対する関心を系統的に醸成することによる行事がある。

⑤創造的人材養成の観点から取り入れようとしている最新な試みはあるか。

- 今後の検討課題と考えている。
- 教員と学生の小さなグループ(東大電気系コンタクトグループ、企業のファシリトリーニングなど)を考える。
- 学生に余裕をあたえる。のびのびと育てる。教員の過度な指導で「学生の能力と人格を小さくまとめない」。
- 卒業を改革するか。卒業をやるか?
- 教員の責任を至上主義をやるか?
- すべての人材が、研究能力あるいは研究指導能力をもっているわけではない。教員の研究と教育を分離するか?
- 「創造性教育」をおこなうか?。産業界では創造性教育は度学しておこなわれている。
- 安易なQ1T尊重志向はやめるか?
- 現在の大学教育の問題として、学問の細分化と専門化の為に、学ぶことの全体像が捉えられなくなっていることが挙げられる。この全体像の教育を新たにも推進したいが、この為には、学ぶ事が直感的に捉えられなければならない。この直感的な全体像こそが、新たな創造を生み出す物である。このため、CAD/CAM一体化で完成設計結果を実装として手取ること出来るなどの設備環境の構築が極めて重要であるが、さらに理論教育においても、単に理論を理論として学ぶのではなく、スーパーコンピュータなどと組み合わせ、理論式でのパラメータ変化をシミュレーションしたとき、2次元の、3次元のグラフィックスでの様に変化していくかを明示する。個人の計算機を、具体的な環境下で確認出来る。などの教育環境の整備が必要である。設備計画などで、強力に推進していきたい。(本学部教育グローバルセメスター体系もこれらに延長線上にある。)
- 文理融合のキャリアアップ
- 実験体・編成教育のストレスをどの段階で解消できるか?その後創造性ははくまされる。ストレス解消の方法は?これは全国的課題だ。
- 本学部としては、節目節目での型整と解放の教育システムの構築を考える。

⑥工学部の事務組織について問う。(回答省略; 事務局から回答)

⑦COEの形成は可能か。

- 長期的に考える。問題は、論文数至上主義の現状と、独自の研究の育成の間の矛盾を、どう解決するかにかかっている。
- 新工学部は職業教育が工学教育が、各々の資格制度との関係はどうか。
 - 安全システム建設工学科の一部を除いて、工学教育者となっている。資格制度への対応は、学生自身の努力に期待させるを得ない。
- 生きる力を学生に与えられる教育が否か。
 - 職業教育はできないが、やむを得ない。
 - 学生のびのびと大きく育てたい。
 - 履修率もあまり相願のない授業(例えは、創発性やコミュニケーション力、チャレンジ力、金儲け力)を大きく伸ばす教育をする。
 - 過去の編入生教育を忘れさせ、のびのびと大きく育てる

た、工学部創設準備室所属教官としての発令をするため、事務手続きとして事前に文部省への上申（教授）が必要であることから、各学部教授会で学内移籍予定教官として正式に確定を依頼。ただし、材料創造工学科については平成9年に設置審の審査を受ける必要があるため、現時点では未定。さらに、工学部に必要な教官研究室、講義室等について、学内移籍予定教官については現所属学部の教官研究室を工学部校舎Ⅰ期棟が完成（平成11年度末予定）するまでの間、継続使用することで関係部局の了承が得られたこと、また、平成11年度末までに新規採用教官30人前後の教官研究室を確保するための具体的な計画（案）を了承。12月26日には7月末日に提出していた香川大学工学部の設置計画について、文部省から設置審における審査結果が文書で通知された。

平成9年1月16日香川大学懇談会の開催。1月29日～30日北陸先端科学技術大学院大学を訪問し、施設・設備の調査を行った。2月7日第14回創設準備委において工学部へ移る学内移籍予定教官の配置換えを決定。また、工学部の創設に向けた関係諸規程（案）について審議・了承、今後、部局長会議（2月7日）、評議会（2月21日）に諮って決定予定。2月21日第15回創設準備委開催。工学部キャンパスの施設整備計画についてゾーニング計画（案）、施設配置計画（案）、階数計画（案）の変更を了承。また、文部大臣裁定が制定された場合に設置される工学部創設準備室長に石川浩工科系学部創設準備室長を選出、文部省に上申手続きを行うことを了承した。

平成9年3月1日近藤浩二前教育学部長が香川大学長に就任。平成9年3月21日第16回創設準備委開催。材料創造工学科の教員採用計画を審議。材料創造工学科の教員採用候補者については平成8年6月3日開催の工科系学部創設準備委員会における決定者を除いて、未定分（助教授）について若干名の補充を行うため、平成9年度予算成立後に公募を行うことを了承。また、工学部の教官研究室等借用に係る「光熱水料等」の負担の取り扱いについて審議・決定。さらに、工学部のリーフレットの作成見本の回覧、工学部創設記念式典及び祝賀会について、会場や招待者等の具体的な実施計画（案）については

文部省等と協議のうえ今後検討する。

平成9年4月1日、「工学部創設準備室」を設置し、看板掛けと記者発表を行った。同時に、創設準備室長として石川浩教授が就任、学内移籍教官（30名）の配置換えを行い、工学部創設準備室教官会議、同責任者会議を発足させた。また、工学部創設準備室が予算配当部局となるため、創設準備室長が部局長会議の正式メンバー、評議会はオブザーバーとなった。全学各種委員会には正式メンバーを送致する。さらに「工学部創設準備委員会」（委員長：近藤浩二学長）を設置し、その下部機関として教員人事委員会（委員長：石川浩創設準備室長）、教育・研究専門委員会（委員長：伊藤寛創設準備室教授）、施設・設備専門委員会（委員長：木村好次創設準備室教授）を設置した。

3.1.7 工学部開設後の歩み

平成9年4月4日第1回工学部創設準備委員会（以下、創設準備委と略称）を開催。各種委員会委員を選出。工学部の広報用リーフレットの配布、5月23日（金）～25（日）開催予定の「'97先端技術工業展」への出展参加、科学技術フォーラム'96の記念論文集の配布。4月18日第2回創設準備委を開催し、4月9日の準備室教官会議で審議決定された平成10年度概算要求書（案）を了承。また、校舎棟等の施設計画については、施設・設備専門委員会決定されたゾーニング計画（案）、施設配置計画（案）、校舎棟階数計画（案）、校舎棟Ⅰ期・Ⅱ期、講義棟、福利図書棟、管理・電算棟、設備棟等の各階平面図、1大講座のフロア計画及びエコスクール構想等について了承。さらに今後の教員人事に関するスケジュール等について了承。

4月25日には、一級建築士受験資格認定のために建設省・国土地理院を訪問、打ち合わせを行った。また、学外就任予定教官との打ち合わせを、知能機械システム工学科と信頼性情報システム工学科は4月26日、安全システム工学科は4月27日に実施した。

5月20日、文部省文教施設部において施設連絡調整会議が開催され、香川大学施設整備計画基本構想（案）が了承され、5月22日、同基本構想（案）を記者発表。6月13日将来構想委員会・工学部創設準備

備委員会合同会議（以下、合同会議と略称）を開催。工学部用地取得に伴う本学校地の活用方法について審議し、教育学部附属高松小学校敷地の一部（1,700m²）及びセミナーハウス敷地（388m²）を工学部用地取得のための財源として活用する方向で今後関係各方面と折衝すること、処分の方法等については学長に一任することを了承、評議会に諮った。なお、附属高松小学校の敷地の一部を活用することについては同校PTA・同窓会・後援会の関係者をはじめ、小学校長、教育学部教授会において事前了承を得た。

6月27日第5回創設準備委を開催。平成9年10月1日に工学部が創設されることに伴う本学学則の一部改正について了承、7月の部局長会議・評議会で審議・決定。香川大学教員停年規程の一部改正について、工学部教員の停年を学部完成年度（H15.3.31）までの間、満65歳に延長し、完成年度後は全学基準の満63歳に戻すことを了承、以後の部局長会議・評議会で審議・決定。次いで、香川大学工学部長候補者として石川創設準備室長を選出、任期は平成9年10月1日から学部が完成する平成15年3月31日までとすることを了承。これに伴い、学部長の任期に関する規程の一部改正を了承。また、工学部評議員候補者の選考を行い、任期2年として、岩本雅民教授（前三菱電機㈱取締役中央研究所長）、木村好次教授（前東京大学生産技術研究所教授）、横瀬廣司教授（前農学部教授）及び伊藤寛教授（前教育学部教授）の4名を選出。また、香川大学学生募集要項（案）について工学部関連分を了承、工学部案として入学試験委員会へ提出。さらに、工学部創設記念行事運営委員会要項（案）を了承、合わせて香川大学工学部図書施設について、工学部分館とする方向で図書委員会で検討する。

7月末日文部省へ材料創造工学科に関する設置計画書（案）を提出、8月に教員審査が行われ、9月12日に文部省から審査結果の伝達があった。平成9年9月29日第6回創設準備委を開催。設置審における審査結果とともに、次年度以降の既存部局への講義室等の使用の件について関係部局の了承を得たこと並びに校舎1期棟の実施設計については9月末の完了を目途に審議中である旨報告された。なお、本委員会終了後に工学部創設準備委員会の解散式と工

学部開設式を併せて実施。近藤学長並びに石川創設準備室長から工学部創設に係るこれまでの支援・協力に対する謝辞とともに、今後の変わらぬ支援・協力について依頼がなされた。

平成9年10月1日、香川大学に「工学部」を創設、看板掛けを行うとともに記者発表を行った。同時に、初代工学部長として石川浩教授が、また初代工学部事務長として上原徹事務官が就任、4人の工学部評議員並びに工学部教職員へ辞令交付を行った。さらに、工学部教授会を設置して第1回工学部教授会を開催した。

10月16日には、工学部創設記念式典・祝賀会を挙行、翌17日には工学部創設記念シンポジウムを開催した。11月には工学部学生募集要項を公表するとともに、先行3学科について、11月29日に推薦入試、平成10年1月17日～18日に大学入試センター試験、2月25日に一般選抜前期日程試験、3月12日に一般選抜後期日程試験をそれぞれ実施し、平成10年4月より第1期生の学生受入を開始、平成11年4月からはすべての学科で学生受入を開始した。なお、第3年次編入学生の受入については、平成12年4月先行3学科で、翌13年4月からは全学科で受入を開始した。

3.2 地元の創設運動

県議会において香川県における理工系学部の設置促進について質問が続き、香川県は昭和58年7月香川大学への理工系学部の設置を文部省等へ陳情を開始し、以来、平成9年10月の工学部創設に至るまで、毎年同様の要望を継続陳情してきた。

昭和60年3月には香川県が「香川田園テクノポリス」建設の地域指定を受け、同61年5月、県は「香川県科学技術高等教育問題懇談会」を設置し、62年に科学技術系高等教育機関のあり方に関する報告書を作成するとともに、香川大学理工系学部の設置を提言している。また、平成2年5月には「香川県21世紀長期構想－魅力ある田園都市香川の形成を目指して－」を策定、これに基づいて同3年3月に策定された「香川県21世紀長期構想事業計画（平成3～7年度）」においては、魅力ある「田園都市香川」の形成を目指して、長期構想の着実な推進を図るため、平成3年度～7年度までの5年間に取り組むべ

き主要な施策の一つとして空港跡地の開発を掲げ、10の推進プログラムの中の1つに、香川大学理工系学部、経営情報学部の設置促進を明確に謳っている。

平成4年12月には、四国経済連合会が学長に「情報処理技術に関する大学院」の設置要望。同5年1月には、香川経済同友会が、「県主導の下に産学官構成による工科大設立構想検討協議会」の設置を知事に提言（1月12日）するとともに、香川大学長に協力要請をした（1月13日）。このような背景の下、県は平成5年6月21日、「理工系高等教育機関に関する懇談会」を設置した。会長は木村等・元香川大学長（当時就実女子大学長）で、委員は県内の産学官代表27人で構成。県内での理工系高等教育の在り方について意見をまとめ、理工系大学設置の必要性とその効果、設置主体を含めた整備手法などを中心に検討し、5年度内にでも中間答申の形で知事に提言することとなった。

同5年8月、香川経済同友会が「企業における教育訓練の実態とリカレント教育への期待－21世紀における地域対応－」をまとめ、理工系高等教育機関の設置等を知事に提言している（8月30日）。同10月、県は「理工系高等教育機関に関するアンケート調査（企業を対象）」を実施した。また、12月には香川県高等学校長協会、香川県高等学校PTA連合会、（社）香川県教育会、（財）香川県教育振興財団、香川県退職校長会、香川県教育県民会議から本学に対して理工系学部設置要望書が提出され、同6年1月、県は先に設置した理工系高等教育機関に関する懇談会に専門委員会を設置、さらに精緻な検討を急ぐこととなった。この背景には、文部省は平成元年度以降、理工系の学部・学科の新設を認めていなかったが、6年度予算の概算要求に和歌山大、島根大への創設準備費が盛り込まれ、この「凍結状態」が解除されたことが挙げられる。平成6年1月26日には、再選された本学岡市友利学長が記者会見で理工系学部設置に意欲を示し、5月末までに計画案を作成したいと表明した。

同6年3月、県は「理工系高等教育機関に関する企業へのヒアリング調査」を実施、サンメッセ香川（香川県産業交流センター）が香川インテリジェントパークに開館した。

6年5月には、香川県議会が「理工系高等教育機関整備促進特別委員会」を設置、翌6月27日には先の理工系高等教育機関に関する懇談会が「香川県の理工系高等教育機関の整備に向けての提言」を知事に提出した。この中では、香川大学への理工系学部の設置を最優先に推進することとされ、根底を「人間」に置き、人間や生命を尊重しつつ、人間や生命と理工系の学問との関係を多面的に捉える分野として、機械（メカトロニクス）関係、電気・電子関係、情報（ソフトウェア）関係、物質（バイオ・新素材・新材料）関係及び環境関係が提示されている。理工系学部の在り方としては、企業との連携、四国工研など試験研究機関との連携、既存の大学や工業高等専門学校との連携、留学生や帰国生徒の積極的な受入、社会人が学べる環境の整備、世界中の高等教育機関との研究ネットワーク造りが示され、当面の県サイドの支援方策として、官民一体の「香川大学理工系学部設置促進期成会（仮称）」の設置と用地確保の協力を知事に要望している。

平成6年7月4日、県は平井知事、池田県議会議長、山本四経連会長、赤澤庄三経済同友会代表幹事、松本商工会議所連合会長、木村前香川大学長、入野香川医大学長ら9人を発起人として「香川大学理工系学部設置促進期成会」を結成、設立発起人に引き続き、各界代表による設立総会を開催した。平井県知事を会長に県議会、教育界、経済界等の代表約70人により構成されたもので、本年度事業として、政府その他関係機関に対する要望及び陳情、理工系学部設置に関する県内関係団体との連絡協議を定めた。8月4日には香川大学理工系学部設置促進期成会による文部省への要望がなされ、7年度予算への調査費計上を陳情、吉田茂高等教育局長は「理工系学部は施設設備に金はかかるが不可能ではない。はっきりした見通しは言えないが、概算要求、その後の対応に協力したい」と応えた。

平成7年2月7日、県議会理工系高等教育機関整備促進特別委員会（綾田福雄委員長）において、上村県企画部長が用地提供や教員確保のためのバックアップなどの協力を表明。キャンパス用地として県土地開発公社が所有する旧高松空港跡地のリザーブゾーン（4.15ha）を提供する用意、研究費助成のための基金創設もできるだけ早い時期に詰める、県出

身者で県外の大学や研究機関で活躍している研究者をリストアップ、香川大へそのデータを提供する旨表明。

平成7年5月15日、香川大学理工学部設置促進期成会理事会が、また6月6日には同総会が開催され、岡市学長が「香川大学工学部（仮称）構想」を発表。「環境アムニティ工学科（80人）」「電子情報工学科（60人）」「知能メカトロニクス工学科（60人）」及び「材料システム工学科（60人）」の4学科、入学定員は計260人（第3年次編入学定員20人を含む）である。また、工学部用地は県が提供を申し出ている香川インテリジェントパーク周辺が望ましい、とした。期成会総会は、知事が議長で積極的な姿勢で盛り上がったことも報告された。同6月14日、香川大学理工系学部設置促進期成会が、8年度予算に学部創設準備費を盛り込むように、文部、大蔵両省に要望した。会長の平井知事、三宅県議会議長、経済団体代表が大臣、次官、局長等を訪れ、予算計上をお願い。吉田高等教育局長は「学部の中身と土地の問題が最大の課題」と指摘。

12月6日県議会で、平井知事が香川大理工系学部の建設候補地として当初予定のリザーブゾーン（4.15ha）から、カルチャーパーク内の美術館と博物館の建設候補地だった敷地（5.24ha）に変更することを表明。平成8年1月、県は香川県科学技術振興財団（仮称）設立準備委員会（委員長＝松本恭輔・香川県商工会議所連合会長）を設け、香川大学工科系学部への財政的支援機関として、新年度に財団を設立、8～12年度にかけて県と市町などの自治体から約30億円を集めて基本財産にし、その運用益で県内の研究機関の研究活動を支援するとともに、8年3月から10年度にかけて民間からの寄附十数億を募って「香川大学理工系学部支援基金」を設けて、同学部の用地確保や施設整備などを支援することを明らかにした。これを受けて、4月25日には設立準備委員会の組織を拡充した設立発起人会を開催、理事長に松本恭輔・香川県商工会議所連合会長を、専務理事に上関克也・県企画部長の就任を了承。8年度事業として、理工系学部設置のための創設費獲得などを国に陳情、全国の科学技術者や研究者を招いて科学技術フォーラムを開催、財団の役割を理解してもらうパンフレットの作成などを決めた。基

本財産は県が6億円、高松市が2億円、各市町が計2千万円を拠出してスタート、5年後には31億円とする。これとは別に香川大学理工学部支援基金を設け、十数億円を目標に民間からの寄付を募る。機器等の購入助成など理工系学部の具体的な施設整備支援に充てる。この支援基金は、学部創設への地元の期待を反映し、5月9日には目標額に迫る12億4千8百万円に上り、平井知事から寄附企業に対して感謝状が贈呈された。

平成8年5月大学は、瀬戸内圏の高等専門学校12校を対象に「工業高等専門学校在校生に対する香川大学工科系学部への編入学希望に関するアンケート調査」を実施、6月には香川経済同友会から本学に対して「工科系学部における編入学制度」導入に関する要望書の提出を受けて、これらを基に文部省と折衝、第3年次編入学定員20名の別枠要求を勝ち取ることができた。

このように節目節目における地域各界各層の熱い支援にさせられて、本学積年の宿願であった工学部の創設は、平成6年度に「カリキュラム改革調査研究経費」、平成7年度に「大学改革等調査経費」、平成8年度に「工科系学部創設準備経費」、平成9年度に「工学部創設準備経費」と新学部創設に必要な道程を一瀉千里に駆け抜け、平成9年10月1日に実現した。なお、種々の観点から強力に支援いただいた香川大学理工学部設置促進期成会は、工学部創設の確定を受けて、平成9年2月24日に解散式を行い、解散した。重ねて、故平井城一香川県知事はじめ地域各界各層の多くの皆様方の熱いご支援・ご協力によって実現したことを肝に銘じて、その労を多としたい。

3.3 創設記念式典・祝賀会及び創設記念シンポジウム

工学部の創設を記念した記念式典は平成9年10月16日、高松国際ホテルで開催された。県内外の産学官代表約320人が出席、地域にとって長年の夢であった工学部設置を祝った。近藤学長の式辞に続き、町村文部大臣祝辞を佐々木高等教育局長が代読、平井県知事、四国生産性本部会長、香川県商工会議所連合会会長から祝辞を賜り、続いて近藤学長から石川初代工学部長を紹介の後、石川学部長から

工学部の学科内容やキャンパス整備などについて説明、今後の抱負を語った。

翌4月17日には、創設記念シンポジウム「人、自然、そして科学技術」を開催、「魅力あるキャンパス・コミュニティー香川大学工学部からの発信」をテーマにパネル討論会を開いた。パネル討論では、片岡勝太郎アルプス電気会長、多田野久タダノ会長、木村錫一四国工業研究所長、上関克也県企画部長、広瀬年久高松市助役、木村好次香川大学工学部教授がパネリスト、岩本雅民香川大学工学部教授がコーディネータを務めた。パネリストからは新生工学部に対する熱い期待が寄せられ、片岡会長は「教官陣の情熱と信念、哲学が学部を育てるエネルギー、学生の個性を見抜くことが必要」と激励された。

さらに、平成9年11月21日～23日には、工学部創設記念国際シンポジウムESRA1997「システムの安全性・信頼性・健全性に関する国際シンポジウム」を開催し、南カリフォルニア大学M.シノヅカ教授並びにカリフォルニア大学アーバイン校A. H.S. アン教授等から斯界最先端の基調講演をいただいた。

4. 教育研究及び管理運営システム

4.1 教員組織と教員採用理念

4.1.1 教員人事の基本方針

工学部における教員人事の基本方針は、以下のとおりである。

- ① 各分野に世界的水準の教員を計画的に配置する。

ア) 各学科に1名以上、世界的水準の教員を配置する。世界的水準の教員とは、海外に向けた活動を積極的に展開しており、相応の知名度を持つものである。

イ) 併せて各大講座毎に国内学会等で指導的活動を展開している教員を配置する。

- ② 香川大学ですでに評価が確立している教員は、積極的に配置する。評価が確立している教員とは、基本的に大学院博士課程に対応可能な者である。

- ③ 各学科において、民間経験者を積極的に採用

し、学部内に多様な観点からの競争原理を導入する。なお、民間経験者の採用は、定員の30%程度を目安とする。

- ④ 著名な外国人教員の採用を推進する。国際化に柔軟に対応するとともに、国際的学術活動において強力な指導力を発揮し、また学内外を活性化して活動のポテンシャルを高める。
- ⑤ 別に定める教員候補者選考基準を満たした者を対象とする。なお、教員候補者選考基準は広く公開し、人事の透明性を高める。
- ⑥ 社会人の登用に当たっては、当該分野において極めて顕著（extraordinary）な社会的貢献を行った者については、選考の対象に加える。
- ⑦ 文系分野の教員採用に当たっては、別途考慮する。
- ⑧ 優秀な人材確保による組織の確立を図るため、工学部教員の停年は65歳とする。ただし、この取り扱いは完成年度までとし、その後は全学基準の63歳に戻すものとする。

工学部教員は、学内移籍、他大学や国公試験研究機関、民間企業の多様な各層から公募により採用する。このような一騎当千の俊英な教授陣が集結し、地域に世界に開かれた新しい工学部発展の気概に燃えて活躍すれば、工学部の完成・発展は磐石である。

4.1.2 教員候補者選考基準

教員選考の基本的考え方は以下のとおりである。

まず、教授は、当該専門分野において国際的に著名な研究者。例えば、国際会議などでリーダーシップを発揮した経験のある者、あるいは、国際的に注目された研究・開発プロジェクトのリーダーの経験のある者。また、高等教育における卓越した見識・経験は当然考慮される。内外の著名な研究者の推薦状の添付を必須とする。

助教授（当時、現准教授）は、論文の発表などにより、当該専門分野において優秀な研究者として認知されている者。例えば、学会賞の受賞、国際会議あるいは学会誌などにおける招待論文の発表経験のある者。また、高等教育に強い情熱をもつ者であること。内外の著名な研究者の推薦状の添付を必須とする。

助手（当時、現助教）は、具体的な事例により、

将来性のある研究者であると認められる者。当該分野における著名な研究者の推薦状の添付を必須とする。

次に、評価方法は、①研究業績 (Number of Publications)、②社会的評価 (Social Achievements)、③リーダーシップ (Leadership)、及び④教育歴 (Education) の4つの尺度について、教授、助教授、助手の職位に応じて、それぞれ、4段階または5段階の採点 (OUTSTANDING: 5点, EXCELLENT: 4点, GOOD: 3点, FAIR: 2点, POOR: 1点) を行い、評価が平均2.5点以上の候補者を選考の対象とする。表6に評価尺度及び採点基準を示す。

表6 教員評価尺度及び採点基準

評価尺度 (Items)	ランク (Rank)	具体的採点基準		
		教授 (Professor)	助教授 (Assoc. Professor)	助手(注1) (Res. Associate)
論文数 (注2) (Number of Publications)	EXCELLENT	40編以上	20編以上	10編以上
	GOOD	30編以上	15編以上	7編以上
	FAIR	20編以上	10編以上	5編以上
	POOR	上記以外	上記以外	上記以外
社会的評価 (Social Achievements)	OUTSTANDING	当該分野の動向を左右するような重要な研究成果を挙げ、また高等教育における革新的な貢献・経験を有し、著書の指針者として広く認知されている。	—	—
	EXCELLENT	当該分野で重要な教育・研究成果を挙げ、広く認知されている。(評1)	当該分野における教育・研究に成果を挙げ、著名である。(評2)	当該分野で実施した研究・研究に成果を持たれている。(評4)または成果に劣らぬ点がある。
	GOOD	当該分野における教育・研究に成果を挙げ、著名である。(評2)	当該分野における教育・研究に貢献している。(評3)	当該分野における教育・研究に積極的である。(評4)
	FAIR	当該分野における教育・研究に関して評価されている。(評3)	当該分野における教育・研究に積極的である。(評4)	当該分野における教育・研究を志向している。(評4)
POOR	上記以外	上記以外	上記以外	
リーダーシップ (Leadership)	OUTSTANDING	多くの国際・国内会議を主催し成功に導くほか、学会における会長・副会長などの重要な役割の経験がある。企業においては、国際的なプロジェクトのリーダーや主要な企業での開発担当本部長などの経験を持つ。	—	—
	EXCELLENT	国際・国内会議を主催し成功に導いたことがある。または学会研究会の創設や幹部としての主要な役割がある。企業においては、研究所長など開発部門の統括責任者としての経験を持つ。	—	—
	GOOD	国際・国内会議における主要な委員や学会各種委員会委員を歴任している。企業においては、副レベルの研究グループの統括経験を持つ。	(評価対象外)	(評価対象外)
	FAIR	学会・研究会委員として、主体的立場にある。企業においては、プロジェクトのリーダーや副レベルの統括経験を持つ。	—	—
POOR	上記以外	—	—	
教育歴 (Education)	EXCELLENT	教育歴15年以上	教育歴7年以上	—
	GOOD	教育歴10年以上	教育歴5年(含非常勤)以上	—
	FAIR	教育歴5年(含非常勤)以上	教育歴2年(含非常勤)以上	(評価対象外)
	POOR	上記以外	上記以外	—
推薦状 (注3) (Reference Letter)	(提出必須)	国内外の著名な研究者等から、国内2通、国外2通、計4通以上	国内外の著名な研究者等から、国内2通以上	国内外の著名な研究者等から、国内2通以上

(注1) 助手については、本基準は30歳以上の応募者に適用し、それ以下の場合は年齢に応じ適宜調整する。
 (注2) 研究業績は、レフり付き論文で計る。ただし、単著等は1件を論文1編、特許は2件を論文1編と換算する。
 (注3) 国内外の著名な研究者からの推薦状の添付を必須条件(prerequisite) とする。ただし、応募者の所属機関の推薦状は除外する。なお、「著名」の判断は応募者によるが、応募者は推薦者の簡単な説明文を添付する。
 <評価の具体例>
 (評1) 受賞賞、複数の学会賞の受賞、主要な学会誌の特集記事のコーディネータなどの経験、複数の著書の出版、国内レベルの審議会委員など。
 (評2) 学会賞の受賞や、学会誌の特集記事のコーディネータなどの経験、複数の著書の出版、都道府県レベルの審議会委員など。
 (評3) 学会誌での解説記事などの経験、著書の出版。
 (評4) 学会での招待発表やパネラーなどの経験。

4.2 管理運営システム

工学部の管理運営システム (平成16年度) は、表7に示すとおり、新世紀を見据えた柔軟で機能的ものを模索し、随所に新しい仕組みを取り入れている。工学部の組織として、学部の管理運営の責任者であり執行機関長としての工学部長、学部の教育研究、管理運営に関わる重要事項の審議機関である教授会、学科の運営責任を負う学科長が法令上の機関であり、これらの機関のもとに効率的な学部運営を行うため副学部長、運営委員会、教員人事委員会及び入試、教務等の専門委員会を設けている。

また、情報基盤室や広報室を設けるとともに、ものづくり工房も設置して、自由な製品作りを楽しめるように配慮している。

表7 工学部 (工学研究科) 運営組織 (平成16年度)

副学部長	○学部長・研究科長 ○副学部長・副研究科長A (総務企画・広報担当) ○副学部長・副研究科長B (教育・研究担当) ○評議員11) ○学科長・専攻長 (各学科1) ○各種委員会委員長
教授会	学部長 (=議長)、全専任教員 (助手を除く。)
研究科委員会	研究科長 (=議長)、大学院担当教員
教員人事委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、教員8 (各学科教授2、学科長を含む。)
運営委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、全学科長、教員4 (各学科教授1)、事務長
工学部審議委員会	副学部長A、副学部長B、各種委員会委員長
学部人事審査委員会	副学部長B、各学科長
学部附属教育施設等検討部会	教員7
同窓会・後援委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、教員4 (各学科長)、教員若干名、事務長
工学部工友会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、教員4 (各学科長)、事務長、事務職員3 (事務長補佐、庶務係長、会計係長)
学学部評価委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、教員4 (各学科1)、事務長
調査研究部会	副学部長B、運営委員4、教務副委員長、入試副委員長、研究企画・調整委員長、事務長補佐
将来構想委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、副学部長B、評議員、全学科長、事務長
調査研究部会	副学部長A、運営委員4、教務副委員長、入試副委員長、研究企画・調整委員長、事務長補佐
入試委員会	副学部長B (=委員長)、教員4 (各学科1)、事務係長
教務委員会	評議員 (=委員長)、教員8 (各学科2、内1は教授)、事務係長
就職委員会	学部長 (=委員長)、副学部長B、各学科長、教員4 (各学科1)、事務長
就職指導部会	就職委員8、事務係長
研究企画・調整委員会	教員4 (各学科1)、庶務係長、会計係長
図書委員会	工学部分館長 (=委員長)、教員4 (各学科1)
国際交流委員会	教員4 (各学科1)、特別委員、庶務係長、学務係長、教務職員
安全衛生委員会	学部長 (=委員長)、副学部長A、教員4 (各学科1)、事務長、産業医、衛生管理者
機構種選定委員会	副学部長B、教員4 (各学科1)、事務長
仕様策定委員会	教員5、事務長
情報基盤室	総合情報基盤センター運営委員1、専門教員2、教員4 (各学科1)、会計係長、技術専門職員
広報室	副学部長A (=室長)、教員4 (各学科1)、教員若干名、庶務係長、技術職員1
ものづくり工房	副学部長B (=工房長)、教員4 (各学科1)、専門教員6 (各工房1)、技術専門職員



寄附講座

地域社会のニーズにあった最先端の教育研究

国立大学法人には、教育研究の豊富化、活性化を図ることを目的に企業からの寄附金で「講座」もしくは「研究部門」を設け、運営する制度が設けられています。現在学部内に開設されている「寄附講座」は3つあり、工学系では東京大学に次いで全国第2位、国内外からその分野の専門家を客員教授として招き、地域社会のニーズにあった21世紀の今後を見据えた最先端の教育研究を行っています。



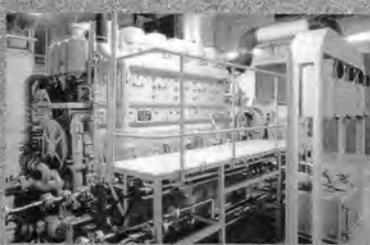
平成11年4月開設
安全システム建設工学科

- 教育研究内容
 - ・基礎地盤動力学
 - ・地震の液状化
 - ・システムイテンディフィケーション

基礎地盤動力学 (穴吹工務店) 講座

■講座紹介
本寄附講座の主な研究テーマは、地震による動的な場、波浪による動的な場、及び動的な場を利用した地盤及び基礎構造物の状態評価の3分野です。具体的には、地盤との連成を考慮した地中基礎構造物の動的解析、海岸及び海中の地盤・基礎構造物の動的解析、及び地盤や既存の基礎構造物の状態評価などについて教育研究を行います。これらの地中問題に特化した研究を行った上で、上部構造部門との共同研究を行うことにより、構造物全体の動的振動や安全設計の飛躍的な発展を目指します。担当教員としては、杭と地盤の動的相互作用に関する研究で世界的に著名なW.D.Finn博士(前カナダ・ブリティッシュコロンビア大学名誉教授、元同大学工学部長・土木工学科教授)及び新鋭の藤田晃氏(前(株)穴吹工務店研究員)が着任しています。

■担当客員教授
William Daniel (Liam) Finn



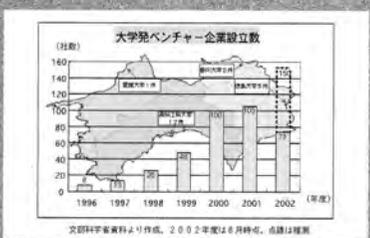
平成13年7月開設
学部共通

- 教育研究内容
 - ・制御高評価、異機制御
 - ・メンテナンスデータのウェブリンク
 - ・劣化・損傷予測
 - ・リスクアンドリライアビリティマネージメント

メンテナンス工学 (四国機器) 講座

■講座紹介
本寄附講座は、設備機器や機械システム等を対象とし、メンテナンス実施現場と緊密に連携して、適切なメンテナンス技術の研究開発、並びにメンテナンス工学の確立を目的としています。具体的には、メンテナンスとは設備機器や機械システム等が使用され始めてから、廃棄されるまでの間、それらの機能を要求レベル以上に管理することであり、本来は生産と匹敵する広がりを持つ分野です。そのような認識のもと、各要素の劣化がどのように全体システムの故障につながり、総体としてシステムの停止・破壊を引き起こすのかといった関連を解析し、システムの信頼性・安全性を確保した上で、最も経済的な維持管理手法を開発することを目指しています。担当教員としては、現場の知識と経営経験併せ持った清田雄彦氏(前三菱自動車工業株式会社副社長)及び、小佐幸二氏(前兵高専技官)が着任しています。

■担当客員教授
清田 雄彦



平成16年4月開設
学部共通

- 教育研究内容
 - ・技術と経営が分かる人材育成
 - ・事業化も視野に入れた研究開発戦略
 - ・研究成果の産学化プロセス

ベンチャービジネス創生工学 (香川証券) 講座

■講座紹介
本寄附講座は、大学での教育・研究の成果を産業応用に活かし社会に役立たせるために、研究開発戦略からベンチャービジネス創生までの起業プロセスについて体系的に研究します。具体的には、高い学術レベルと実用性を併せ持った研究テーマの設定、簡易的な研究開発手法、研究開発型ベンチャーの必要要件、特許戦略、マーケティングと販路開拓、資金計画と収支計画、などビジネスプランの作成と実行について自らの起業体験を通して教授します。さらに、多くの学生や教員が新しい産業の創生に果敢に挑戦するベンチャーマインドを養成します。担当教員としては、産学融合の理念に込めた技術と経営が分かる人材育成を目指し、実務経験も豊富な理系の塚本一義氏(前香川大学工学部教授)と文系の中山千晶氏(新日本監査法人)、岩部達雄氏(岩部会計事務所)が着任しています。

■講座紹介
大学発ベンチャーの創生

■担当客員教授
塚本 一義
中山 千晶

■担当客員助教授
岩部 達雄

図4 香川大学工学部における寄附講座の設置

表10 FM高松コミュニティ放送における香川大学工学部教員紹介

- (株)FM高松コミュニティ放送・次吹英隆社長(当時;現会長)のご厚志で、平成11年1月6日以来、工学部教員が交代で出演し、木村嘉男DJの司会の下に、研究紹介等を行っています。
 なお、この放送は、現在、「この指とまわし」として、FM高松(81.5MHz)(火曜日午前9:45～10:00、午後1:45～2:00(再放送))およびFMサン(76.1MHz)(火曜日午前9:45～10:00、木曜日午前9:45～10:00(再放送))にて放送されています。
- H11.01.06(水)石川工学部長(専門:信頼性工学/信頼性情報システム工学科)
 - H11.01.20(水)堺 教授(専門:コンクリート工学/安全システム建設工学科)
 - H11.02.03(水)杉本教授(専門:メカニクス/知能機械システム工学科)
 - H11.02.17(水)生越教授(専門:無線通信工学/信頼性情報システム工学科)
 - H11.03.03(水)木村教授(専門:トライボロジー/材料創造工学科)
 - H11.03.17(水)白木教授(専門:耐震信頼性工学/安全システム建設工学科(現信頼性情報システム工学科))
 - H11.04.07(水)塚本教授(専門:生産工学/知能機械システム工学科(現ペンチャービジネス創生工学講座))
 - H11.04.21(水)吉野教授(専門:水文学/安全システム建設工学科)
 - H11.05.05(水)古川教授(専門:ソフトウェア工学/信頼性情報システム工学科)
 - H11.05.19(水)高津教授(専門:技術起業/知能機械システム工学科)
 - H11.06.02(水)高本教授(専門:微細加工/知能機械システム工学科)
 - H11.06.16(水)江原教授(専門:アメニティ材料/材料創造工学科)
 - H11.07.05(月)角田教授(専門:材料物理学/材料創造工学科)
 - H11.07.19(月)三原教授(専門:塑性加工工学/知能機械システム工学科)
 - H11.08.02(月)国重教授(専門:鉄鋼材料学/材料創造工学科)
 - H11.08.16(月)岡本教授(専門:医療電子工学/信頼性情報システム工学科)
 - H11.09.06(月)藤 教授(専門:画像情報処理/知能機械システム工学科)
 - H11.09.20(月)伊藤教授(専門:レーザー物理学/材料創造工学科)
 - H11.10.04(月)郭 助教授(専門:ロボット工学/知能機械システム工学科)
 - H11.10.18(月)平田助教授(現教授)(専門:セラミックス材料学/知能機械システム工学科)
 - H11.11.01(月)増田教授(専門:環境緑化工学/安全システム建設工学科)
 - H11.11.15(月)仲谷助教授(現教授)(専門:地球環境変遷学/安全システム建設工学科)
 - H11.12.06(月)山崎教授(専門:画像認識/信頼性情報システム工学科)
 - H11.12.20(月)中西教授(専門:レーザー光学/材料創造工学科)
 - H12.01.03(月)服部教授(専門:光子通信工学/信頼性情報システム工学科)
 - H12.01.17(月)佐々木助教授(元教授)(専門:海洋利用学/安全システム建設工学科)
 - H12.02.07(月)若林助教授(現教授)(専門:トライボロジー/材料創造工学科)
 - H12.02.21(月)角道助教授(専門:水資源管理/安全システム建設工学科)
 - H12.03.06(月)堀川助教授(専門:マルチメディア通信/信頼性情報システム工学科)
 - H12.03.20(月)荒川助教授(専門:システム最適化工学/信頼性情報システム工学科)
 - H12.04.03(月)呉 助教授(現教授)(専門:ヒューマンインターフェース/知能機械システム工学科)
 - H12.04.17(月)寺林助教授(専門:地盤工学/安全システム建設工学科)
 - H12.05.03(水)河原教授(専門:河川工学/安全システム建設工学科)
 - H12.05.17(水)石井助教授(現教授)(専門:精密計測工学/知能機械システム工学科)
 - H12.06.07(水)岩本教授(専門:物性物理学/材料創造工学科)
 - H12.06.21(水)山小助教授(現教授)(専門:画像計測/知能機械システム工学科)
 - H12.07.05(水)大平教授(専門:精密加工/知能機械システム工学科)
 - H12.07.19(水)森下助教授(専門:地盤整備計画/安全システム建設工学科)
 - H12.08.02(水)高島教授(専門:光通信デバイス及び素材/材料創造工学科)
 - H12.08.16(水)橋口助教授(専門:半導体工学/知能機械システム工学科)
 - H12.09.06(水)能見助教授(専門:ロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H12.09.20(水)吉田助教授(専門:応用力学/安全システム建設工学科)
 - H12.10.04(水)清水教授(専門:電子工学/信頼性情報システム工学科)
 - H12.10.18(水)野田教授(専門:地震工学/安全システム建設工学科)
 - H12.11.01(水)掛川助教授(専門:生体材料工学/材料創造工学科)
 - H12.11.15(水)和田助手(現助教授)(専門:ロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H12.12.06(水)澤田助教授(専門:制御工学/知能機械システム工学科)
 - H12.12.20(水)永末助教授(専門:海洋工学/安全システム建設工学科)
 - H13.01.03(水)Finn教授(専門:地盤動力学/安全システム建設工学科)
 - H13.01.17(水)大上助教授(専門:機械要素/知能機械システム工学科)
 - H13.02.07(水)北島助手(現助教授)(専門:非線形力学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.02.21(水)加藤助教授(専門:計測機科学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.03.07(水)石丸助教授(専門:マイクロロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H13.03.21(水)井面助教授(専門:信頼性工学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.04.04(水)最所教授(専門:高信頼性システム/信頼性情報システム工学科)
 - H13.04.18(水)長谷川助教授(現教授)(専門:土木地質学/安全システム建設工学科)
 - H13.05.02(水)富永助教授(専門:知識工学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.05.16(水)永崎助教授(専門:薄膜工学/材料創造工学科)
 - H13.06.06(水)小柴助教授(現教授)(専門:材料物理学/材料創造工学科)
 - H13.06.20(水)今井助教授(専門:情報工学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.07.04(水)香川講師(専門:計算機科学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.07.18(水)丹治助手(現助教授)(専門:電子情報工学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.08.01(水)松島教授(専門:信頼性工学/安全システム建設工学科)
 - H13.08.15(水)石丸助教授(専門:知的制御/知能機械システム工学科)
 - H13.09.05(水)守屋講師(専門:森林生態学/安全システム建設工学科)
 - H13.09.19(水)吉村助手(専門:塑性加工/知能機械システム工学科)
 - H13.10.03(水)木村助教授(専門:感性工学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.10.17(水)安藤助手(現講師)(専門:自然言語処理/信頼性情報システム工学科)
 - H13.11.07(水)青柳教授(専門:土質工学/安全システム建設工学科)
 - H13.11.21(水)守田助手(専門:地域計画学/安全システム建設工学科)
 - H13.12.05(水)筑瀬教授(専門:数理統計学/信頼性情報システム工学科)
 - H13.12.19(水)井筒助教授(専門:水理学/安全システム建設工学科)
 - H14.01.02(水)垂水教授(専門:協調作業支援/信頼性情報システム工学科)
 - H14.01.16(水)中川助教授(専門:光学情報処理/信頼性情報システム工学科)
 - H14.02.06(水)神垣教授(専門:MOSSLI工学/材料創造工学科)
 - H14.02.20(水)土井教授(専門:社会基盤計画学/安全システム建設工学科)
 - H14.03.06(水)馮助教授(専門:セラミックスの材料化学/材料創造工学科)
 - H14.03.20(水)伊助手(専門:情報システム工学/信頼性情報システム工学科)
 - H14.04.03(水)清田教授(専門:メンテナンシステム学/メンテナンシステム学(四国機器)講座)
 - H14.04.17(水)品川助教授(専門:材料加工/材料創造工学科)
 - H14.05.01(水)石井助教授(専門:固体物性物理学/材料創造工学科)
 - H14.05.15(水)小川教授(専門:半導体プロセス/材料創造工学科)
 - H14.06.05(水)小松寄附講座員(専門:メンテナンシステム学/メンテナンシステム学(四国機器)講座)
 - H14.07.03(水)石川助教授(専門:教育政策、産学官交流/地域開発共同研究センター)
 - H14.07.17(水)パチコフ・ガントウ 客員教授(専門:システム工学/信頼性情報システム工学科)
 - H14.10.01(水)垂水教授(専門:協調作業支援/信頼性情報システム工学科)
 - H14.10.15(水)上原事務長
 - H14.10.22(水)三宅徹(知能機械システム工学科)
 - H14.11.05(水)伊藤教授(専門:人間工学/知能機械システム工学科)
 - H14.11.19(水)江島教授(専門:光通信デバイスおよび素材/材料創造工学科)
 - H14.12.03(水)能見助教授(専門:ロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H14.12.17(水)寺林助教授(専門:地質学/安全システム建設工学科)
 - H14.12.31(水)橋口助教授(専門:半導体工学/知能機械システム工学科)
 - H15.01.14(水)仲谷教授(専門:地球環境変遷学/安全システム建設工学科)
 - H15.01.28(水)田中助教授(専門:材料物理学/材料創造工学科)
 - H15.02.11(水)澤田助教授(専門:制御工学/知能機械システム工学科)
 - H15.02.25(水)林助手(専門:パターン認識/知能機械システム工学科)
 - H15.03.11(水)郭助教授(専門:知能機械/知能機械システム工学科)
 - H15.03.25(水)細谷事務係長
 - H15.04.01(水)堺教授(専門:コンクリート工学/安全システム建設工学科)
 - H15.04.15(水)仲谷教授(専門:地球環境変遷学/安全システム建設工学科)
 - H15.04.29(水)キャンパスにて学生インタビュー(ANNR)
 - H15.05.06(水)細木助手(専門:マイクロマシンニング/知能機械システム工学科)
 - H15.05.20(水)野々村助手(専門:地理情報システム学(GIS)/安全システム建設工学科)
 - H15.06.03(水)神崎教授(専門:海洋・海洋工学/安全システム建設工学科)
 - H15.06.17(水)高橋助教授(専門:システム制御/知能機械システム工学科)
 - H15.07.01(水)中山客員教授(現公認会計士/ペンチャービジネス創生工学(香川証券)講座)
 - H15.07.15(水)松島教授(専門:信頼性工学/安全システム建設工学科)
 - H15.07.29(水)須崎助教授(専門:IT材料/材料創造工学科)
 - H15.08.12(水)吉野事務長
 - H15.08.26(水)永末助教授(専門:海洋工学/安全システム建設工学科)
 - H15.09.09(水)和田助教授(専門:ロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H15.09.23(水)岡本教授(専門:電子工学/信頼性情報システム工学科)
 - H15.10.07(水)岩部客員助教授(現現理士/ペンチャービジネス創生工学(香川証券)講座)
 - H15.10.21(水)西岡助教職員
 - H15.11.04(水)河内山助手(専門:神経科学/知能機械システム工学科)
 - H15.11.18(水)鶴岡助教授(専門:半導体物性学/材料創造工学科)
 - H15.12.02(水)小川教授(専門:半導体プロセス/材料創造工学科)
 - H15.12.16(水)河原教授(専門:河川工学/安全システム建設工学科)
 - H15.12.30(水)清水教授(専門:電子工学/信頼性情報システム工学科)
 - H16.01.06(水)清水教授(専門:電子工学/信頼性情報システム工学科)
 - H16.01.13(水)大平教授(専門:精密加工/知能機械システム工学科)
 - H16.01.27(水)伊藤教授(専門:材料物理学/材料創造工学科)
 - H16.02.10(水)河原教授(専門:水理学/安全システム建設工学科)
 - H16.02.17(水)大平教授(専門:精密加工/知能機械システム工学科)
 - H16.02.24(水)長谷川教授(専門:地質工学/安全システム建設工学科)
 - H16.03.09(水)増田教授(専門:環境緑化工学/安全システム建設工学科)
 - H16.03.23(水)山崎教授(専門:電子情報工学/信頼性情報システム工学科)
 - H16.04.06(水)仲谷教授(専門:地球環境変遷学/安全システム建設工学科)
 - H16.04.20(水)白木教授(専門:信頼性工学/信頼性情報システム工学科)
 - H16.05.04(水)秦教授(専門:計測制御/知能機械システム工学科)
 - H16.05.18(水)吉田助教授(専門:応用力学/安全システム建設工学科)
 - H16.06.01(水)山小助教授(専門:画像計測/知能機械システム工学科)
 - H16.06.15(水)掛川助教授(専門:バイオマテリアル工学/材料創造工学科)
 - H16.06.29(水)呉教授(専門:人間工学/知能機械システム工学科)
 - H16.07.13(水)国重教授(専門:構造材料設計学/材料創造工学科)
 - H16.07.27(水)和田助教授(専門:アシティブ工学/知能機械システム工学科)
 - H16.08.10(水)馮助教授(専門:セラミックス材料科学/材料創造工学科)
 - H16.08.24(水)三原教授(専門:ロボティクス/知能機械システム工学科)
 - H16.09.07(水)土居教授(専門:運動力学/知能機械システム工学科)
 - H16.09.21(水)岡野教授(専門:建築計画学/安全システム建設工学科)
 - H16.10.05(水)宮川助手(専門:X線磁気解析/総合生命科学実験センター)
 - H16.10.19(水)青木助手(知的財産活用本部)
 - H16.11.02(水)林助教授(専門:情報工学/総合情報基盤センター)
 - H16.11.16(水)上谷助手(専門:材料組織学/材料創造工学科)
 - H16.11.30(水)長路教授(専門:地質工学/安全システム建設工学科)
 - H16.12.14(水)井面助教授(専門:信頼性工学/信頼性情報システム工学科)
 - H16.12.28(水)松島教授(専門:構造工学/安全システム建設工学科)

表11 テレビせとうち放送番組「技術の森」及び「NEXT～未来への挑戦～」で工学部研究室等紹介

- (1) [技術の森] H13.5～15.3の第2、第4日曜日の昼12:00～12:30の時間帯で放映
- 第1回 (H13.5.12)「プロローグ」(香川大学工学部長 石川 浩 教授)
 - 「予防健康管理システム」
 - 紹介者 知能機械システム工学科/造形工学 三原 豊 教授
 - 出演者 三宅医学研究所セントラルパーククリニック 院長 三宅 信一郎
 - 協力 香川県科学技術研究センター (FROM 香川)
 - 三宅医学研究所セントラルパーククリニック
 - 第2回 (H13.5.26)「基礎地盤動力学最前線」
 - 紹介者 安全システム建設工学科/基礎地盤動力学 (穴吹工務店)、William Daniel (Liam) Finn 客員教授
 - 出演者 (株) 穴吹工務店常務取締役・建設本部長 朝倉 泰雄/研究開発部長 森西 隆克
 - 協力 (株) 穴吹工務店/穴吹住環境デザイン研究所/平野地域計画 (翻訳) 平野キャシー
 - 第3回 (H13.6.9)「モバイル・移動通信技術最前線」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/情報ネットワーク工学、生達 重章 教授
 - 出演者 信頼性情報システム工学科 菊川 洋助教授/香川 孝司 講師
 - (株) NTTドコモ四国 広報部長 宮原 一夫
 - 協力 (株) NTTドコモ四国
 - 第4回 (H13.6.23)「環境・強度評価技術」
 - 紹介者 材料創造工学科/材料システム工学 江原 隆一郎 教授
 - 出演者 キヤスコ (株) 研究開発グループ素材研究チームマネージャー 山野 克己
 - 協力 香川県科学技術研究センター (FROM 香川)/キヤスコ (株)
 - 第5回 (H13.7.7)「交通予防安全システム」
 - 紹介者 知能機械システム工学科/知能機械設計工学 塚本 一義 教授
 - 出演者 安全システム建設工学科 野田 茂 助教
 - 知能機械システム工学科 和田 隆夫 助手 (現助教)
 - 日本道路公団 四国支社 副支社長 横田 信隆
 - (株) NTTドコモ四国 代表取締役常務 MM事業本部長 中澤 正良
 - 協力 国土交通省国土技術政策総合研究所/日本道路公団/香川県警察本部交通部/香川県トラック協会/日本自動車連盟四国支部 (株) NTTドコモ四国/ (株) 豊田中央研究所
 - 第6回 (H13.7.21)「発光ダイオード (LED) の可能性」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/メディア電子工学
 - 香川大学地域開発共同研究センター長 岡本 研正 教授
 - 出演者 巴電産業 (株) 広告部 広告営業課 川崎 信
 - 香川県警察本部 交通部交通規制課 次長 水谷 耕造
 - 協力 香川県警察本部交通部/巴電産業 (株)/四国旅客鉄道 (株)
 - 第7回 (H13.8.11)「画像解析技術」
 - 紹介者 知能機械システム工学科/自律制御工学 学科長 (現香川大学知的財産活用本部 副本部長) 桑 清治 教授
 - 出演者 (株) ヒューテック本社営業部 販売課 高崎 純一/プロファイル部 亀山 光章
 - 協力 香川県科学技術研究センター (FROM 香川)/ (株) ヒューテック/ (株) NTTドコモ四国/ (株) 穴吹工務店/ (株) 百十四銀行/四国旅客鉄道 (株)
 - 第8回 (H13.8.25)「トライボロジ」
 - 紹介者 材料創造工学科/材料システム工学/香川大学副学長 東京大学名誉教授 (現香川大学長) 木村 好次 教授
 - 出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 若林 利明 助教授 (現教授)
 - (株) タダノ・技術研究所 商品開発センターリーダー 担当課長 山本 耕治
 - 東京電機大学 工学部精密機械工学科/ (株) タダノ
 - 第9回 (H13.9.8)「ソフトウェア開発技術」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/感性情報システム工学 吉川 善吾 教授
 - キヤッツ (株)
 - 第10回 (11回) (H13.9.22) 技術討論会「技術起業と地域振興-KIPからの発信」
 - 紹介者 香川大学工学部 工学部長 石川 浩 教授
 - 若手県立大学長 前東北大学総長 西澤 淳一/香川県知事 真鍋 武紀
 - 香川インテリジェントパーク交流推進協議会 会長 (株) 穴吹工務店 代表取締役社長 穴吹 英隆/東京大学大学院 領域創世科学研究科 瀬戸内海塾 塾長 尾花嘉男/香川経済同友会 代表幹事 (株) NTTドコモ四国 代表取締役社長 中村 晴水
 - 協力 (株) 香川産業顕彰センター/サンエック/香川/香川県立図書館/香川県立文書館/産業技術総合研究所/高温高圧流体技術研究所/香川県科学技術研究センター (FROM 香川)/香川県新産業創造センター (NEXT 香川)/ (株) 穴吹工務店/穴吹住環境デザイン研究所/ (株) タダノ・技術研究所/日本電気 (株)/ 隆登産業 (株)/ (株) 四国エン지니어リング/ (株) ヒューテック/日本IBM (株)/四国計測工業 (株)/ (株) 三創
 - 第12回 (H13.10.13)「環境の世紀 コンクリート技術」
 - 紹介者 安全システム建設工学科/防災システム建設工学/香川大学工学部 副学部長 豊 孝司 教授
 - 出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 吉田 秀典 助教授
 - (株) 穴吹工務店 係長 赤松 新吾/主任 竹下 智正/沖野 智都
 - 協力 香川県生活環境部環境局廃棄物対策課/香川県立図書館/ (株) 穴吹工務店/四国電力 (株)/日本砕石協会香川県支部/香川県東部清掃施設組合/多和砕石工業 (株)/山陽新聞
 - 第13回 (H13.10.27)「光と半導体の融合をめざして」
 - 紹介者 材料創造工学科/材料物理学 伊藤 寛 教授
 - 出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 小柴 俊 助教授 (現教授)
 - アイ電子 (株) 高松生産本部 品質管理部 課長 久保 和弘
 - 協力 アイ電子 (株) 科学技術振興事業 (ERATO)
 - 第14回 (H13.11.10)「水環境のコントロール」
 - 紹介者 安全システム建設工学科/水システム工学 吉野 文雄 教授
 - 香川大学工学部 安全システム建設工学科 河原 能久 教授/角道 弘文 助教授/末水 慶寛 助教授/高松市企画財政部 企画課 企画担当課長補佐 國方 聖三/豊年池土地改良区 理事長 大塚 伊三郎・会計担当理事 熊谷 謙
 - 協力 香川大学農学部/高松市/豊年池土地改良区/雨水貯留浸透技術協会/高松市立山溪小学校/説元新園
 - 第15回 (H13.11.24)「信頼性工学-最先端技術最前線」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/感性情報システム工学 荒川 雅生 助教授
 - 出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 工学部長 石川 浩 教授/伊 禮分 助手 NASA エームズ研究所 研究員 三浦 宏一/甲南大学理工学部 中山 弘隆 教授/山口大学工学部 吉川 浩平 教授
 - 協力 宇宙開発事業団 (NASDA)/NASA/四国カコ・コラボロトリング (株)
 - 第16回 (H13.12.8)「光通信材料開発最前線」
 - 紹介者 材料創造工学科/材料物理学 江島 正毅 教授
 - 出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 中川 浩 助教授/香川医科大学医学部附属病院 医療情報部 副部長 岡田 宏基 助教授/伊興電機 (株) 技術部技術課 係長 水谷 成男
 - 協力 香川医科大学附属病院/北海道大学/伊興電機 (株)
 - 第17回 (H13.12.22)「感性工学の応用技術最前線」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/信頼性工学 白木 渡 教授
 - 出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 松島 学 教授
 - 協力 国土交通省香川工事事務所/大内町/白鳥町/日本道路公団四国支社/土木学会四国支部感性工学部会・「住民参加型感性情報研究会」/香川マップ販売 (株)
 - 第18回 (H14.1.12)「マイクロマシン技術最前線」
 - 紹介者 知能機械システム工学科/造形工学 大平 文和 教授
 - 出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 橋口 原 助教授
 - 協力 東京大学生産技術研究所・マイクロメカトロニクス国際研究センター 藤田 教授 /香川県科学技術研究センター (FROM 香川)
 - 第19回 (H14.1.26)「未来の信頼サービス」
 - 紹介者 信頼性情報システム工学科/情報ネットワーク工学 垂水 浩幸 教授
 - 協力 (株) 香川産業顕彰センター/カルビー (株) 四国支店/ (株) 高津製作所
 - 第20回 (H14.2.9)「ロボット制御-製作技術最前線」
 - 紹介者 知能機械システム工学科/知能機械設計工学 杉本 浩一 教授
 - 出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 石原 秀明 助教授/能見 公博 助教授
 - 協力 (株) タダノ/宇宙開発事業団 (NASDA) /NASA /航空宇宙技術研究所/高松市市民文化センター/高松市立林小学校/ロボフェスタ神奈川2001実行委員会
 - 第21回 (H14.2.23)「環境緑化・計測工学最前線」
 - 紹介者 安全システム建設工学科/環境政策工学 増田 拓朗 教授
 - 出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 土井 健司 教授/ (有) MO環境設計 大西泰弘
 - 協力 日本道路公団四国支社/日本パズ協会/ (有) MO環境設計
 - 第22回 (H14.3.9)「メンタナンスの最前線」
 - 紹介者 メンタナンス工学/四国機器寄附講座 清田 雄彦 客員教授
 - 出演者 香川大学工学部 メンタナンス工学講座 小松 孝二 寄附講座教員/四国機器 (株) 取締役会長 木村 壽希・サービス本部 本部長 合田 秀男
 - 協力 四国機器 (株)/大工製紙 (株)/大光化学工業 (株)/日新製鋼 (株)/月星運来機 (株)
 - 第23回 (24回) (H14.3.23) 技術討論会「技術の国際化と国際貢献」/エビロー (工学部長)
 - 紹介者 香川大学工学部長 石川 浩 教授
 - 出演者 香川経済同友会 国際委員長 (株) タダノ代表取締役社長 多田野 益/徳島県総務課官・元東京大学 大学院教授 月尾 勇男/香川経済同友会 代表幹事 (株) NTTドコモ四国 代表取締役社長 中村 晴水/東京理科大学工学部 学長・元東京大学 生産技術研究所所長 原島 文雄/財団法人高松市国際交流協会 理事 平野地域計画・技術 翻訳 平野 キャサリン/財団法人香川県国際交流協会 運営委員 フランゼジハス社長 GJ、ペイジ
 - 第25回 (H14.4.14)「地域活性化への提言『未来への挑戦』」
 - 出演者 香川大学工学部 工学部長 石川 浩 教授
 - 協力 四国経済連合会・経済産業省 四国経済産業局、全日空ホテルエレメント高松
 - 第26回 (H14.4.28)「バーチャル・テクノロジー」
 - 出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 塚本 一義 教授 (現香川大学工学部ベンチャービジネス創生工学 (香川証券) 講座 客員教授)
 - 第27回 (H14.5.12)「情報処理技術の進化とセキュリティ-支援技術」
 - 出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 三原 豊 教授
 - 協力 (株) マイクロ・システム・サービス、香川大学教育学部、香川県視覚障害者福祉センター
 - 第28回 (H14.5.26)「感性商品選択システム」
 - 出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 荒川 雅生 助教授
 - 協力 (株) 穴吹工務店 穴吹住環境デザイン研究所
 - 第31回 (H14.7.14)「宇宙に探る『科学の目』」
 - 出演者 香川大学工学部 大林 成行 客員教授
 - 協力 (株) 国土情報技術研究所
 - 第32回 (H14.7.28)「ゼロエミッションへの挑戦 (循環型環境浄化技術)」
 - 出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 白木 渡 教授
 - 協力 (株) ナカエエンジニアリング
 - 第37回 (H14.10.13)「ファジー理論と異常診断」
 - 出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 パチコフ・ガンチョ 客員教授
 - 第38回 (H14.10.27)「交通予防安全技術」
 - 出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 具 泉龍 教授
 - 協力 香川県警察本部交通部、(社) 香川県交通安全協会
 - 第39回 (H14.11.10)「身近なテクノロジー-車分り」
 - 出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 小川 一文 教授
 - 第41回 (H14.12.8)「フェイバーレーザ」
 - 出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 江島 正毅 教授
 - 第44回 (H15.1.26)「南海地震 大池からの警告」
 - 出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 長谷川 修一 教授
- (2) [NEXT～未来への挑戦～]で工学部研究室等紹介
平成15年4月より、毎週土曜日 (第5を除く) 9時15分～9時30分で放送中
番組提供社: NTTドコモ四国、四国電力、加ト吉、富士産業、百十四銀行
●H15.3「ナノビネット」
出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 橋口 原 助教授
●H15.6「緑の再生利用」
出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 江原 隆一郎 教授
●H15.7「水環境システム」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 河原 能久 教授
●H15.8「コンクリート多化」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 松島 学 教授
●H15.9「情報システム」
出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 垂水 浩幸 教授
●H15.10「LEDの可能性」
出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 岡本 研正 教授
●H15.11「健康医学」
出演者 香川大学工学部 ベンチャービジネス創生工学 (香川証券) 講座 塚本 一義 客員教授

- H15.12.6「産廃・リサイクル」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 吉田 秀典 助教授
- H16.1.10「四国の地質の謎」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 長谷川 修一 教授
- H16.2.7「環境をよくする技術」
出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 白木 渡 教授
- H16.3.6「環境にやさしい自動車の新技術」
出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 三原 豊 教授
- H16.4.3「新しい発想の住宅」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 土井 健司 教授
- H16.5.1「日本の液晶を救う！革新的な検査装置」
出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 石丸 知郎助 助教授
- H16.6.5「ケーブルが技術を進化させる」
出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 須崎 嘉文 助教授

- H16.7.3「大学発ベンチャー」
出演者 香川大学工学部 信頼性情報システム工学科 垂水 浩幸 教授
- H16.8.7「水がきれいになる？」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 永水 慶寛 助教授
- H16.9.4「月着陸機と宇宙ロボットの研究」
出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 能見 公博 助教授
- H16.10.2「撮水加工の新技術」
出演者 香川大学工学部 材料創造工学科 小川 一文 教授
- H16.11.6「今求められるメンテナンス」
出演者 香川大学工学部 メンテナンス工学(四国機器)講座 清田 雄彦 客員教授
- H16.12.4「より小さく、微細加工技術」
出演者 香川大学工学部 知能機械システム工学科 大平 文和 教授
- H17.1.8「建設分野におけるIT化の取り組み」
出演者 香川大学工学部 安全システム建設工学科 神崎 正 教授

表12 工学部長による地域各層への工学部教育研究活動等の紹介

- 第17回国際会議受入奨励セミナー「国際会議開催のために」(H19.12.1/高松国際ホテル)
- 第2回高松市企業代表者懇談会「香川大学工学部の概要」(H19.12.3/株)香川産業顕彰センター)
- 多度津丸岡同窓会総会講演会「香川大学工学部の創設について」(H10.1.25/多度津町福祉センター)
- 香川商工中金ニュース第15回総会講演会「工学部開設について」(H10.2.20/商工中金高松支店)
- 香川経済同友会講演会「新設工学部と地域産業振興」(H10.3.16/ホテル川六)
- 高松ロータリークラブ早稲「香川大学工学部創設について」(H10.3.19/リーガホテルゼスト高松)
- 香川ベンチャー支援技術講演会「香川大学工学部の概要」(H10.3.23/リーガホテルゼスト高松)
- 第70回同窓会記念誌「源内に学ぶー新設工学部のシステム創りに際してー」(H10.5.13/財)平賀源内先生顕彰会)
- 第25回丸高経済懇話会「新設工学部の創設理念について」(H10.3.26/ホテルニューフロンティア)
- 坂出商工会議所報OPINION「新生香川大学工学部について」(H10.4.1/香川県坂出商工会議所)
- 四国新聞インタビューNOW「一周年を迎えてー多様な教授陣と緊密にー」(H10.4.20/四国新聞)
- TEC-1例会「これからの大学の在り方と産業界との関わり」(H10.5.19/株)四国総合研究所ホール)
- 第18回四国テクノサイエンス研究会「工学部の創設について」(H10.5.28/コトデンまごうパレットホール)
- 香川県工業界講演会「新世紀の工学部と地域産業振興」(H10.6.5/リーガホテルゼスト高松)
- 讃岐三田会例会講話「新生香川大学工学部について」(H10.6.20/香川県立丸亀高等学校同窓会館)
- 企業情報かわがわ一視点「工学部創設と地域への貢献」(H10.7.1/No.159、(財)香川県企業振興公社経済研究情報センター)
- 香川大学教養ゼミ「工学部の創設理念」(H10.7.9/香川大学教育学部)
- 香川大学教養ゼミ「新世紀の工学部」(H10.7.16/香川大学教育学部)
- 四国プラチナ同窓会例会「工学部の創設と地域への貢献」(H10.9.16/高松東急ビル)
- 四国情報通信懇談会「新生工学部と地域産業連携」(H10.9.17/ホテル川六;四国電気通信管理局)
- 高松商工会議所第396回常議員会「工学部と地元産業界との連携強化について」(H10.9.24/高松商工会議所)
- 地域情報化セミナー「工学部創設とキャンパス・コミュニティ」(H10.11.11/(株)香川県情報推進機構・株)香川産業顕彰センター)
- 寄附講座「基礎地盤動力学(穴吹工務店)講座」設置記者会見(H10.12.9/香川県教育委員会教育記者クラブ)
- (財)高松コンベンション・ビューロー機関誌「Convention Spirits」Vol.6 理事長新春対談「21世紀を展望したコンベンションの振興について」(H11.1.16/香川県商工会議所連合会)
- 香川キョウクラブ例会早稲「地域の期待に応える工学部」(H11.5.20/香川県民ホール)
- 香川県商工会議所連合会講話「産官交流と技術移転」(H11.6.24/高松商工会議所)
- 商工中金講演会「工学部1年余の歩みと産学官連携」(H11.7.15/リーガホテルゼスト高松)
- 第11回京都大学工学部・機河会「香川大学工学部の創設」(H11.8.28/京大会館)
- 高松商工会議所研修会「香川大学工学部と地域産学官研究連携」(H11.9.14/高松商工会議所研修会)
- 穴吹青年塾「工学部創設とこれからの科学技術開発」(H11.9.16/(株)穴吹工務店)
- 米国における先進大学施設設備の調査研究(H11.9.18~9/26/南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学Irvine校、ライス大学、コロンビア大学、MIT)
- IROS'99国際会議における香川大学工学部(大会議開催予定地)の紹介(H11.10.19/韓国・京城市・現代ホテル)
- 多度津工業高校保護者懇談会「新世紀の工学プロフェッショナル」(H11.10.23/多度津工業高校講堂)
- 建通新聞「新春インタビュー 香川大学工学部長に聞く」(H12.1.1/建通新聞特稿号「務べ!! 2000」)
- NHKテレビ放送6:30香川・いきいき讃岐人「工学部キャンパス開設を迎えて」(H12.1.5/NHK高松スタジオ)
- 香川県建築士事務所協会創立30周年記念座談会「文化の視点から見た建築・情報」(H12.2.29/讃岐3館)
- 四国新聞インタビュー「期待に必ずこたえる」(H12.4.1/四国新聞特稿3館)
- 四国職業能力開発大学校座談会「21世紀の展望」(H12.4.6/四国新聞16館)
- 科学新聞「文理融合教育を目指す香川大学工学部」(H12.4.14/科学新聞6館)
- 泉民クラブ「キャンパス開設にあたって」(H12.4.15/39巻142号)
- 経営戦略会議「地域の期待に応える工学部」(H12.4.25/香川厚生年金会館)
- FM香川 池田弘子のちょっといい話「工学部の熱い取組」(H12.5.8/FM香川スタジオ)
- 香川テクノフェア2000テークアップ(H12.5.26/サンメッセ香川)
- 香川経済同友会第32回企業活性化研究会「新生工学部と地域産学官連携」(H12.5.31/香川大学工学部)
- KSGG講演会「国際会議と通訳」(H12.6.4/マリナバレスさぬま)
- 四国産業人クラブ交流会(H12.6.13/リーガホテルゼスト高松)
- JGN四国シンポジウム開会挨拶(H12.6.15/香川県社会福祉総合センター)
- 建築学科の魅力(岡田和男・日本建築学会会長と対談)(H12.26/香川大学工学部)
- 日本材料学会信頼性情報工学部委員会「香川大学工学部紹介」(H12.6.30/香川大学工学部)
- 企業情報かわがわ一視点「地域の熱い期待に応えて」(H12.7.1/No.183、(財)香川県企業振興公社経済研究情報センター)
- 歴史シンポジウム「情報ネットワークの先駆 平賀源内」(H12.7.22/香川県歴史博物館)
- 工学部外部評価委員会(委員長=松尾隆 名古屋大学総長ほか8名)(H12.7.31~8.1/香川大学工学部)
- 工学部説明会(H12.8.2/香川大学工学部)
- 地域開発共同研究センター開設記念講演会(H12.10.25/香川大学工学部)
- 物づくり一貫教育検討協議会(H12.10.19/香川大学工学部)
- 地域科学技術振興会議(香川会議)「メカトロニクスと地域科学技術振興」(H12.10.21/香川大学工学部)
- 四国職業能力開発大学校校舎竣工披露式(H12.10.25/四国職業能力開発大学校)
- 香川大学工学部キャンパス開設記念ミニイベント開幕式(H12.10.26/詫間電波工業高等専門学校)
- 詫間電波工業高等専門学校外部評価委員会(H12.10.26/詫間電波工業高等専門学校)
- 四国新聞オアシス「21世紀の工学部の構築」(H12.10.27/Vol.109)
- 香川大学工学部キャンパス開設記念「IEEE IROS2000国際会議」(H12.11.1/香川大学工学部)
- 国際会議キヤンパソン「MET JAPAN 2001」レセプション(H12.11.9/Convention Spirits Vol.24/花樹会)
- 香川の新たな産業づくり懇談会(H12.11.10/県庁第1会議室)
- インターンシップ推進連絡協議会(H12.11.27/高松商工会議所)
- 工学部キャンパス開設記念ミニイベント設置「求められる和・話・輪・環」(H12.11.29/山崎新聞29面)
- 高松市国際交流協会設立10周年記念シンポ「どうなる世界、DO(どう)する高松」(H12.12.16/香川県民ホール)
- インターンシップ交流懇談会(H12.12.18/香川大学工学部)
- 瀬戸内海塾会式(塾長:東大大学院尾馬嘉男教授)(H12.12.3/NTTドコモ四国本社ビル)
- テレビせとうち新春知事対談「輝け!香川」(H13.1.3/テレビせとうち)
- 四国新聞月曜座談「新世紀を見据えて」(H13.1.8/四国新聞3館)
- 産業情報「香川」Voice「熱い期待に応えて」(H13.1.15/No.2、(財)香川県企業振興公社経済研究情報センター)
- 務塾「工学部から見た21世紀」(H13.1.16/香川大学工学部)
- 香川の新たな産業づくり懇談会(H13.1.24/ネクスト香川)
- 関西電子情報産業界同組合交流会(H13.2.23/香川大学工学部)
- 全国大学適合特別公開講座「コーエー学入門」(H13.2.24/香川県社会福祉総合センター)
- NHKロボコン学生大会社会行会(H13.2.28/香川大学工学部)
- STEPネットとわく・巻頭言「新たな飛躍を求めて」(H13.3/Vol.2、No.2、STEP)
- 日経新聞高松支局異業種交流会(H13.3.23/日本経済新聞高松支局)
- 外国人による工学部外部評価(米国防NSF工学監理官・Ken P.Chong博士)(H13.3.26/香川大学工学部)
- 技術懇談会「新生香川大学工学部」(H13.3.30/(株)石垣)
- 池田弘子のちょっといい話出演者交流会(H13.4.7/(財)中核文化財団)
- TEC-1例会「工学部におけるインターンシップへの取り組みについて」(H13.4.24/BSOホール)
- テレビせとうち経済ウイークリーインタビュー(H13.4.25/日経新聞33館)
- ギガビットネットワーク四国連絡協議会総会・講演会(H13.4.23/香川大学工学部)
- 日経新聞高松支局長インタビュー「最優秀学生を迎えて」(H13.5.9/香川大学工学部)
- テレビせとうち「技術の森No.1:アローログ」(H13.5.13/12:00~12:30/テレビせとうち(19CH))
- 瀬戸内海塾(代表世話人:塾長:尾馬嘉男・東京大学大学院教授)(H13.5.20/牟礼町、石匠の里公園)
- 日本材料学会信頼性情報工学部委員会功労賞授賞式(H13.5.23/大阪大学コンベンションセンター)
- テレビせとうち「ワールド・ビジネスサテライト:新産業創出」(H13.5.24/23:00~23:45/テレビせとうち(19CH))
- テクノフェア2001開会式(H13.5.26/サンメッセ香川・香川大学工学部)
- アングル・この人に聞く「新キャンパス1年」(H13.5.25/日経新聞33館)
- テクノフォーラム2001イン香川パネル討論会「香川から発信-新世紀の新技术・新産業-」(H13.5.26/サンメッセ香川)
- 香川大学工学部広報メディアセンター発会式(H13.5.30/香川大学工学部)
- 香川インテリジェントパーク(KIP)交流推進協議会(H13.6.11/(株)香川産業顕彰センター)
- 香川インテリジェントパーク(KIP)機能強化推進協議会(H13.6.15/ネクスト香川)
- 四国産業人クラブ(H13.6.15/ホテル川六)
- 日経新聞高松支局異業種交流会(H13.6.21/日本経済新聞高松支局)
- コンベンション誘致促進協議会(高松コンベンション・ビューロー)(H13.7.7/高松商工会議所)
- 工学部国際インターンシップ交流会(H13.7.7/香川大学工学部)
- 寄附講座「メンテナンス工学(四国機器)講座」設置記者会見

(H 13.17/香川県教育委員会教育記者クラブ)

- 香川日経懇話会 (H 13.17.19/今治太田美術館)
- 香川地域人材育成推進協議会 (H 13.17.27/リーガゼストホテル高松)
- ブリティッシュ・コロンビア大学 (UBC) 応用科学部との学術交流協定調印式 (H 13.7.31/香川大学工学部)
- 香川の新たな産業づくり懇話会 (H 13.8.1/ラポールイン高松)
- 日経新聞交遊社「年下の発見」 (H 13.8.15/日経新聞36面)
- 香川県研究開発委員会 (H 13.8.17/ネクスト香川)
- 流通技術懇話会(株)セシル志度工場 (H 13.8.27/株)セシル志度工場
- インターンシップ学生歓迎会 (H 13.8.30/株)NTTドコモ四国本社
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 13.8.31/高松商工会議所)
- 韓国海洋大学校技術セミナー「香川大学工学部の教育研究活動」 (H 13.9.5/韓国海洋大学校)
- 報道責任者会議との懇話会 (H 13.9.13/なぐさ荘)
- プロジェクトマネジメント学会四国支部設立準備委員会・記念シンポジウム (H 13.9.20/香川大学工学部)
- テレビせとち「技術の森No.10:技術討論会—技術起業と地域復興—」 (H 13.9.23:11:30~12:30/テレビせとち (19CH))
- 香川日経懇話会 (H 13.9.26/喜代美山荘花樹苑)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 13.10.05/日本経済新聞社高松支局)
- NTTドコモ四国モバイルトップ・セミナー (H 13.10.12/リーガホテルゼスト高松)
- 高松南ロータリークラブ「職場表彰」/上原徹・香川大学工学部事務長
- 香川日経懇話会 (H 13.10.17/全日空ホテルクレメント高松)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 13.10.25/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川県科学技術会議 (H 13.10.26/高松商工会議所)
- 新・四国平成塾「慶の復興」[学の座]担当 (H 13.11.1/松山全日空ホテル)
- NTTドコモ四国「モバイルマルチメディア・フェスタ2001」開会式 (H 13.11.2/サンメッセ香川)
- 県立高松桜井高等学校創立記念特別講演会「新世紀の工学プロフェッショナル」 (H 13.11.5/県立高松桜井高等学校校講堂)
- 香川ケーブルテレビ・ビデオ収録「香川の明日を担う若手研究者の夢」 (H 13.11.7/香川大学附属四国館工学部分館)
- 中国・上海大学延長校区特別講演会「香川大学工学部の諸活動」 (H 13.11.9/中国・上海大学延長校区)
- 中小企業家同友会・香川大学工学部合同懇話会 (H 13.11.12/香川大学工学部)
- 中国・四国工教育協会大学教育研究会「高大連携の意義と課題」 (H 13.11.13/広島市立大学情報科学部)
- 香川の新たな産業作り懇話会 (H 13.11.13/広島市立大学情報科学部)
- 香川県立多度津工業高等学校創立記念式典 (H 13.11.14/香川県産業技術センター)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 13.11.17/県立多度津工業高等学校)
- 第9回高校工芸科生徒研究発表全国コンクール (H 13.11.21/日本経済新聞社高松支局)
- テレビせとち「技術の森No.15:信頼性工学・最適化技術最前線」 (H 13.11.30/香川県県民ホール北館)
- 山陽新聞「日一週「野次馬PCを撃て?」 (H 13.12.2/山陽新聞)
- 工学部交通安全講習会 (H 13.12.3/香川大学工学部)
- 石川浩先生の遺事を祝う会 (H 13.12.7/株)穴吹工務店穴吹住環境デザイン研究所)
- 瀬戸内海塾(代表世話人・塾長:月尾嘉男・東京大学大学院教授) (H 13.12.9/香川短期大学)
- 山陽新聞「日一週「頭を垂れる」 (H 13.12.9/山陽新聞)
- 特別講演会「香川大学工学部創設と地域産学官連携活動」 (H 13.12.11/北九州市立大学北館)
- 山陽新聞「日一週「テレトレ作戦」 (H 13.12.16/山陽新聞)
- 香川日経懇話会 (H 13.12.20/喜代美山荘花樹苑)
- 英連合講話「工学部が地域に果たす役割」 (H 13.12.20/高松・新帝舎)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 13.12.21/日本経済新聞社高松支局)
- 山陽新聞「日一週「コロナウイルス」 (H 13.12.23/山陽新聞)
- 寄附講座「メンテナンクス(四国機器)講座」設置感謝状贈呈式 (H 13.12.27/四国機器(株)本社)
- テレビせとち新春特別番組「香川県知事対談「みずとみどり」 (H 14.1.3:8:00~8:55/テレビせとち (19CH))
- 山陽新聞「日一週「クレジット・カード」 (H 14.1.6/山陽新聞)
- 香川インテリジントパーク機能強化推進協議会 (H 14.1.8/サンメッセ香川会議室)
- 山陽新聞「日一週「金策券に学ぶ」 (H 14.1.13/山陽新聞)
- 山陽新聞「日一週「己の類型を知る」 (H 14.1.20/山陽新聞)
- 香川大学工学部科学技術フォーラム2002「21世紀の海洋と開発」 (H 14.1.24/香川県県民ホール北館)
- 山陽新聞「日一週「文理融合」 (H 14.1.27/山陽新聞)
- 香川日経懇話会 (H 14.1.30/全日空ホテルクレメント高松)
- 中国・四国工教育協会大学教育部20周年記念講演会並びに研究会「高大連携の意義と課題」 (H 14.2.8/香川大学工学部)
- 国際ロータリー第2670地区香川第1・第2分区分合インターシティ・ミーティング(IM)パネル討論会「地域と共に生きる—異文化理解と国際交流—」 (H 14.2.17/高松市市民会館ホール)
- 毎日新聞懇話会「KIPと産学連携」 (H 14.2.20/株)香川産業顕彰センター)
- 四国産業官連携サミット(尾身・科学技術担当大臣) (H 14.2.22/丸亀懇話会)~23/全日空ホテルクレメント高松)
- ロボフェスタ出場者社行会 (H 14.2.26/香川大学工学部)
- 香川日経懇話会 (H 14.2.27/喜代美山荘花樹苑)
- 琴平商工会講演会「工学部創設と地域産学官連携」 (H 14.3.4/琴平町商工会)
- プロジェクトマネジメント学会四国支部設立総会・記念講演会 (H 14.3.5/香川大学工学部)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 14.3.7/高松商工会議所)
- 四国新聞ZOOM UPこの人に関く「PM学会四国支部発足」 (H 14.3.18/四国新聞)
- テレビせとち「技術の森No.24:技術討論会—技術の国際化と国際貢献—」 (H 14.3.24:11:30~12:30/テレビせとち (19CH))
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 14.3.26/日本経済新聞社高松支局)
- 外国人による工学部外部評価(委員長:Prof.G.Schueler;インスブルック大学教授) (H 14.3.28/香川大学工学部)
- テレビせとち「技術の森No.25:討論会—四国の活性化—」 (H 14.4.14:12:00~12:30/テレビせとち (19CH))

- ギガビットネットワーク四国連絡協議会総会・講演会 (H 14.4.17/香川大学工学部)
- 穴吹学園工科大学等新設披露会 (H 14.4.18/穴吹工務店本社)
- 四国新聞特集「ブロードバンド時代到来「本格的ブロードバンド時代」を邁進して」 (H 14.2.21/四国新聞)
- 香川日経懇話会 (H 14.4.25/全日空ホテルクレメント高松)
- 穴吹青年祭「いま考えるべきこと—工学部創設を通して—」 (H 14.5.9/(株)穴吹工務店本社)
- 香川日経懇話会 (H 14.5.10/喜代美山荘花樹苑)
- 瀬戸内海塾(代表世話人・塾長:月尾嘉男・総務部総務審議官・東大大学院教授) (H 14.5.11/坂出・松ヶ浦マリナー)
- 香川テクノフェア開会式 (H 14.5.24/サンメッセ香川)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 14.6.5/高松市役所)
- 香川県研究開発委員会 (H 14.6.6/ネクスト香川)
- 香川大学大学院工学研究科修士課程開設記念式典・祝賀会 (H 14.6.8/香川大学工学部)
- 四国産業人クラブ交流会 (H 14.6.10/リーガルホテル・ゼスト高松)
- KIP交流推進協議会 (H 14.6.11/株)香川産業顕彰センター)
- 四国経済産業局テクノブリッジ運営委員会 (H 14.6.20/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川日経懇話会 (H 14.6.20/全日空ホテルクレメント高松)
- 工学部記者発表「音声発生装置(澤田助教)」 (H 14.7.3/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 四国経済産業局長歓迎会 (H 14.7.10/サポート高松・ミケイラ)
- 香川日経懇話会 (H 14.7.16/喜代美山荘花樹苑)
- 工学部国際インターンシップ交流会 (H 14.7.26/日本経済新聞社高松支局)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 14.7.27/穴吹工務店本社)
- 連山文部科学大臣来学 (H 14.7.27/ネクスト香川)
- 香川県研究開発委員会 (H 14.8.8/ネクスト香川)
- 第41回四国工業教育研究協議会 (H 14.8.20/香川大学工学部)
- 中国・西国地区工学部事務協議会(開催当番大学) (H 14.8.29/香川大学工学部)
- 日本材料学会四国支部先端技術懇話会 (H 14.8.30/高松パルコホテル)
- KIP機能強化推進会議 (H 14.9.3/香川工研)
- 瀬戸内海塾(塾長:月尾嘉男・総務審議官・東大大学院教授) (H 14.9.6/喜代美山荘花樹苑)
- 香川県科学教育振興会総会 (H 14.9.9/香川大学工学部)
- 香川県科学技術会議 (H 14.9.10/香川県庁12F大会議室)
- 上海大学科学技術セミナー (H 14.9.12/中国・上海大学延長校区)
- 十六夜例会「工学部の活動紹介」 (H 14.9.17/とくまき寮)
- 香川日経懇話会 (H 14.9.18/喜代美山荘花樹苑)
- 工学部記者発表「学生ロボットベンチャー」 (H 14.9.25/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 工学部オープンキャンパス (H 14.9.29/香川大学工学部)
- 四国経済産業局長との懇話会 (H 14.10.9/香川大学工学部校舎)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 14.10.18/日本経済新聞社高松支局)
- 工学部記者発表「寄附講座・ベンチャービジネス創生学(香川証券) 講演会披露」 (H 14.10.23/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 香川日経懇話会総会・講演会 (H 14.10.24/喜代美山荘花樹苑)
- 中国・西国地区国立大学工学部長会議(開催当番大学) (H 14.10.28/香川大学工学部)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 14.11.7/高松市役所3F会議室)
- 瀬戸内海塾(月尾嘉男・総務審議官・東大大学院教授) (H 14.11.16/坂出・松ヶ浦マリナー)
- 宅建協会西支部分会「地域に果たす工学部の役割」 (H 14.11.20/宅建協会会議室)
- NTTドコモ四国「i-Applic」コンテスト審査委員会 (H 14.11.21/NTTドコモ四国)
- テックカット「暮らしと技術の建設フェア」 (H 14.11.22/サンメッセ香川)
- 四国経済産業局長との懇話会 (H 14.11.22/四国経済産業局長室)
- 毎日新聞高松支局長との懇話会 (H 14.11.25/香川大学工学部)
- 工学部記者発表「ナノ・ピンセット(橋口助教ら)」 (H 14.11.26/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 香川日経懇話会 (H 14.11.26/宮崎国際ホテル)
- 工学部交通安全講習会 (H 14.12.2/香川大学工学部)
- 第53回国立大学工学部部長会議運営委員会(開催当番大学) (H 14.12.5~6/島根大学総合理工学部)
- 第5次発表ベンチャー(株)スペースダグ株主説明会 (H 14.12.12/香川証券(株)本社)
- 香川日経懇話会 (H 14.12.25/全日空ホテルクレメント高松)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 14.12.26/日本経済新聞社高松支局)
- テレビせとち「新春知事対談」 (H 15.1.3/テレビせとち (19CH))7:30~8:30)
- 四国産学官連携シンポジウム(ノーベル物理学賞受賞者小柴俊昌先生/工学部科学技術フォーラム2003) (H 15.1.11/香川県県民ホール)
- 工学部国際インターンシップ報告会 (H 15.1.15/香川大学工学部)
- 香川ニュービジネスクラブ新春講演会・互礼会 (H 15.1.22/香川県県民ホール)
- TOPインタビュー「香川大学工学部長」 (H 15.1.25/香川経済レポートNo.759)
- (株)四国総合研究所との懇話会 (H 15.1.28/高松国際ホテル)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 15.1.29/日本経済新聞社高松支局)
- 「インターンシップ推進事業」推進連絡協議会 (H 15.2.12/香川新聞12F会議室)
- 香川日経懇話会 (H 15.2.20/全日空ホテルクレメント高松)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 15.2.21/日経新聞高松支局・鎮雄亭)
- 四国経済産業局テクノブリッジ運営委員会 (H 15.3.17/全日空ホテルクレメント高松)
- 四国県庁会(元文部大臣中曽根弘文氏を囲んで) (H 15.3.29/高松・だより人)
- 香川日経懇話会 (H 15.4.15/喜代美山荘花樹苑)
- 日銀高松支店長歓迎会 (H 15.4.15/全日空ホテルクレメント高松)
- テレビせとち「文理融合」録画 (H 15.4.22/香川大学工学部)
- ギガビットネットワーク四国連絡協議会総会・講演会 (H 15.4.23/香川大学工学部)
- テレビせとち「ベンチャービジネス」録画 (H 15.4.24/香川大学工学部)
- プロジェクトマネジメント学会四国支部講演会 (H 15.5.9/(株)穴吹工務店環境デザイン研究所)
- 報道責任者会議との懇話会 (H 15.5.12/高松市役所3F会議室)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 15.5.16/全日空ホテルクレメント高松)
- 国立大学工学部部長会議・総会(開催当番大学) (H 15.5.16/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川誠設高校講演会 (H 15.5.17/香川誠設高校体育館)
- 工学部交通安全公開セミナー (H 15.6.9/香川大学工学部)
- 香川県研究開発委員会 (H 15.6.11/ネクスト香川)
- 工学部記者発表「地域新生コンソーシアム、マッチングファンド採用」 (H 15.6.18/香川大学工学部広報メディアセンター)

- KSGG (香川善意通訳の会) 交流会 (H 15.6.22/マリンパレス香川)
- 工学部活動紹介 (北見工業大学) (H 15.6.27/北見工業大学長室)
- 原子力発電環境整備機構懇話会 (四国新聞社) (H 15.6.30/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川商工中金ニュース会議「地域産学官連携における大学の果たす役割」(H 15.7.4/小豆島国際ホテル)
- 四国経済産業局長転送会 (H 15.7.9/日経新聞高松支局)
- 香川日経懇話会 (北川正徳氏を囲んで) (H 15.7.11/喜代美山荘花柳海)
- 瀬戸内海塾 (代表世話入/月尾嘉男・前総務審議官・東大大学院教授) (H 15.7.25/東かがわ市・ヘルスおおち)
- アルプス電気 (株) との技術交流会 (H 15.7.29/アルプス電気 (株) 中央研究所)
- 工学部就職希望者訪問 (H 15.8.7/香川大学工学部)
- 工学部オープンキャンパス (H 15.8.10/香川大学工学部)
- 香川県研究開発委員会 (H 15.8.11/ネクスト香川)
- 平成15年度国立学校等技術専門職員研修会 (H 15.8.19/香川大学工学部)
- 工学部活動紹介 (長崎総合科学大学) (H 15.8.20/長崎総合科学大学学長室)
- 高等学校教頭研修会「高大連携について」 (H 15.8.22/香川県教育センター)
- 工学部活動紹介 (群馬大学) (H 15.8.27/群馬大学本部)
- 工学部記者発表「大学発ベンチャー (株) VRスポーツの設立」 (H 15.8.28/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 山陽新聞学長・学部長インタビュー (H 15.8.30/山陽新聞32面)
- NTTドコモ四国アドバイザリーボード (H 15.9.9/(株) NTTドコモ四国)
- 日経新聞四国経済「ここが聞きたい」 (H 15.9.10/日経新聞35面)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 15.10.2/日経新聞高松支局)
- 文部科学省高等教育局・連立局長来学 (H 15.10.3/香川大学工学部長室)
- 香川日経懇話会 (小谷勝日経大版本社編集局長) (H 15.10.9/喜代美山荘花柳海)
- 工学部国際インターンシップ報告会 (H 15.10.27/香川大学工学部)
- (社) 塑性加工学会総会・講演会 (H 15.11.7/松ノ井パレス)
- 日本人間工学会中国四国支部研究発表会 (H 15.11.15/香川大学工学部)
- 工学部科学技術フォーラム'03「大学発ベンチャーと寄附講座による関係」 (H 15.11.18/香川県民ホール)
- 四国職業能力開発大学校推進協議会 (H 15.11.20/ポリテクカレッジ四国)
- 香川大学・上海大学ジョイントワークショップ (H 15.11.27/香川大学本部)
- 工学部交通安全セミナー (H 15.12.1/香川大学工学部)
- NTTドコモ四国「i-App」コンテスト審査委員会 (H 15.12.22/(株) NTTドコモ四国)
- 日経証券 (株) 交流懇話会 (H 15.12.15/香川証券 (株) グレストハウス)
- 国際学術交流協定締結 (H 15.12.22/中国・哈爾濱工程大学)
- 工学部記者発表「学生ベンチャー「(有) かがわ学生ベンチャー」設立」 (H 15.12.25/香川大学工学部広報メディアセンター)
- テレビせとあ「新春春事対談」 (H 16.1.3/テレビせとあ (19CH) 700~800)
- 四国新年交流会 (H 16.1.9/四国経済連合会・四国生産性本部/高松国際ホテル)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 16.1.19/日本経済新聞社高松支局)
- 香川大学・香川県連絡協議会 (H 16.1.20/香川大学事務局4F大会議室)
- 工学部国際インターンシップ報告会 (H 16.1.21/香川大学工学部)
- 香川ニュービジネスクラブ新春講演会・互礼会 (H 16.1.23/香川県民ホール)
- 香川県地域情報化推進協議会講演会 (H 16.1.26/香川大学工学部)
- 韓国海洋大学学長との懇談会 (H 16.1.26/香川大学工学部)
- 香川県都市計画協議会 (H 16.1.29/ホテルニューフロンティア)
- 香川日経懇話会 (H 16.2.3/喜代美山荘花柳海)
- 中国・哈爾濱工程大学研究班との交流懇談会 (H 16.2.4~28/香川大学工学部)
- 香川県都市計画協議会 (H 16.2.12/香川県厚生年金会館)
- アルプス電気 (株) との技術懇談会 (H 16.2.12/香川大学工学部)
- 工学部記者発表「大学発ベンチャー (株) 複合医学工学研究所設立」 (H 16.2.13/香川大学工学部広報メディアセンター)
- NTTドコモ四国中津社長交流懇談会 (H 16.2.14/高松市DUO)
- JGN推進会議 (H 16.2.18/(株) 三菱総合研究所)
- 高松ロータリークラブ客話「工学部の産学官連携活動」 (H 16.2.19/リーガホテルゼスト高松)
- 京都大学COB高松市民講座 (H 16.2.22/香川県民ホール)
- NTTドコモ四国アドバイザリーボード (H 16.3.1/(株) NTTドコモ四国本部)
- 高温高圧流体技術研究所運営委員会 (H 16.3.4/高温高圧流体技術研究所)
- 国際ロータリー第2670地区地区大会 (H 16.3.6~7/アスティ徳島)
- FM高松コミュニティ放送番組審議会 (H 16.3.9/(株) 穴吹工務店本社)
- 高松工業高等専門学校有識者懇談会 (H 16.3.9/高松工業高等専門学校)
- 香川日経懇話会 (H 16.3.9/ロイヤルパークホテル高松)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 16.3.11/日本経済新聞社高松支局)
- 香川県科学技術会議 (H 16.3.12/讃岐会館)
- 四国産業・技術振興センター・トップセミナー (H 16.3.17/ホテルニューフロンティア)
- 香川大学工学部後援会役員会 (H 16.3.22/だいらん)
- 四国経済産業局テクノブレッジ運営委員会 (H 16.3.23/全日空ホテルクレメント高松)
- 中国電子科学技術大学との学術交流協定調印式 (H 16.3.29/中国電子科技大)
- ZOOM UP この人に聞く「大学発ベンチャー支援」 (H 16.3.29/四国新聞地方経済 (5))
- 香川大学工学部後援会総会 (H 16.4.6/香川大学工学部)
- アルプス電気 (株) との技術懇談会 (H 16.4.15/香川大学工学部)
- CME2005国際会議準備委員会 (H 16.4.20/サンポートシンボルタワー1F)
- 竹鶴の夕べ (H 16.4.21/リーガホテルゼスト高松)
- 国際会議等誘致推進協議会 (H 16.4.22/高松観光タミナカ6F)
- 日本科学会信頼性工学部門委員会 (H 16.4.23/香川大学工学部)
- フランス・サボア大学との技術懇談会 (H 16.4.26/香川大学工学部)
- 香川大学大学院博士後課程入学式 (第一期生) (H 16.4.28/香川大学工学部)
- 治友会 (H 16.5.8/ロイヤルパークホテル)
- 国立大学工学部長会議 (H 16.5.13~14/仙台国際ホテル)
- 月尾嘉男先生還暦記念冒険報告会 (H 16.5.14/六本木アカデミービル)
- 香川県研究開発委員会 (H 16.5.19/ネクスト香川)
- サンポートホール高松グランドオープン記念式典 (H 16.5.20/サンポート高松)
- 笑壇会 (H 16.5.20/全日空ホテルクレメント高松)
- 報道責任者会議と医学部・工学部合同懇談会 (H 16.5.25/高松国際ホテル)
- 香川経済同友会総会・講演会 (H 16.5.26/全日空ホテルクレメント高松)
- アルプス SHOW'2004・技術交流会 (H 16.5.27/高輪プリンスホテル)
- 丸亀高等学校特別講演会 (H 16.5.28/丸亀高等学校)
- 木村奨学会総会 (H 16.5.29/四国機器 (株))
- 香川大学大学院博士課程開設記念式典 (H 16.6.1/高松国際ホテル)
- NTTドコモ四国アドバイザリーボード (H 16.6.2/(株) NTTドコモ四国本社)
- 知的財産権関係専門家説明会 (H 16.6.10/大阪地方裁判所)
- 東京九高会講演会・総会 (H 16.6.12/石蓮記念ホール・東京三喜ビル9F)
- 工学部交通安全公開セミナー (H 16.6.14/香川大学工学部)
- 工学部記者発表「学生ロボットベンチャー「株式会社未来機械」NEDOプロジェクト採択」 (H 16.6.15/香川大学工学部広報メディアセンター)
- マルナカ会記念講演会 (H 16.6.17/全日空ホテルクレメント高松)
- 笑壇会 (H 16.6.22/二樓)
- KSGG (香川善意通訳の会) 総会・講演会 (H 16.6.27/マリンパレスさぬき)
- 瀬戸内海塾 (月尾嘉男・東大名誉教授・前総務審議官) (H 16.7.5/eとびあ・かがわBBスクウェア)
- 香川マルチメディアフォーラムシンポジウム (H 16.7.7/香川県民ホール)
- 四国産業者クラブ講演会 (H 16.7.9/リーガホテルゼスト高松)
- 流政之氏を支援する会 (H 16.7.12/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川日経懇話会 (H 16.7.14/喜代美山荘花柳海)
- 四電エレクトロニクス記念講演会 (H 16.7.21/ニューフロンティアホテル)
- 工学部国際インターンシップ交流会 (H 16.7.24/香川大学工学部)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 16.7.28/日本経済新聞社高松支局)
- 笑壇会 (H 16.7.29/高松ラジオシティホール)
- JGN-E総会・講演会 (H 16.8.3/香川大学工学部)
- IBM'04四国フォーラム香川会議 (H 16.8.4~5/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川大学説明会 (H 16.8.11/香川大学工学部)
- 日経新聞本社編集局長を囲む会 (H 16.8.12/日本経済新聞社高松支局)
- 光MEMS国際会議レセプション (H 16.8.23/サンポート高松)
- KIP交流推進協議会 (H 16.8.27/(株) 穴吹工務店穴吹工場デザイン研究所)
- ICIMA'2004国際会議 (H 16.8.30~31/中国成都市・中国電子科技大学)
- 香川県都市計画審議会 (H 16.9.3/讃岐会館)
- 中国・哈爾濱工程大学劉学長一行との懇談会 (H 16.9.11~13/香川大学工学部)
- 電気工業産業界応用部門大会レセプション (H 16.9.15/全日空ホテルクレメント高松)
- NEDOプロジェクト現地視察 (H 16.9.17/香川大学工学部)
- PBL手法による授業成果発表会 (H 16.9.21/香川大学工学部)
- 日中ワークショップ (H 16.9.24~25/中国・哈爾濱工程大学)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 16.10.7/日経新聞高松支局)
- 国立大学52工学系学部長会議・総会 (H 16.10.8/KKRホテル東京)
- 丁将棋日本シリーズ四国大会レセプション (H 16.10.9/全日空ホテルクレメント高松)
- 香川日経懇話会 (H 16.10.18/全日空ホテルクレメント高松)
- ビジネスマッチングin香川懇親会 (H 16.10.19/穴吹工場デザイン研究所)
- 工学部記者発表「経済産業省・文部科学省の大型プロジェクトに2件採択」 (H 16.10.21/香川大学工学部広報メディアセンター)
- サンポート日韓国際海洋セミナー「世界の海洋開発と将来展望」 (H 16.10.22~25/サンポート高松/韓国海洋大学校崔福植HANNARA号)
- 中国・四国地区国立大学工学部長会議 (H 16.10.25~26/山口グラントホテル)
- 工学部交通安全公開セミナー (H 16.10.31/香川大学工学部)
- 工学部オープンキャンパス (H 16.10.31/香川大学工学部)
- 香川県中小企業家同友会大学 (H 16.11.9/香川県産業振興センター)
- アルプス電気 (株) との技術懇談会 (H 16.11.12/アルプス電気 (株) 中央研究所)
- エネスコ香川支部例年客話 (H 16.11.17/ロイヤルパークホテル高松)
- 中国・四国工学教育協会大学教育委員会役員会 (H 16.11.18/徳島大学工学部)
- 近畿・中国・四国地区国・公・私立大学工学部長懇談会 (H 16.11.19/大阪工業大学)
- NTTドコモ四国モバイルトップセミナー (H 16.11.25/高松国際ホテル)
- 日経新聞高松支局異業種交流会 (H 16.11.25/日経新聞高松支局)
- 四国職業能力開発大学校推進協議会 (H 16.11.26/四国職業能力開発大学校)
- 国土交通省四国地方整備局との技術開発懇談会 (H 16.11.29/香川大学工学部)
- 工学部記者発表「香大工学部発ベンチャーVRスポーツ・ジースポートと福祉機器など共同開発」 (H 16.12.1/香川大学工学部広報メディアセンター)
- 工学部交通安全公開セミナー (H 16.12.6/香川大学工学部)
- 瀬戸内海塾 (月尾嘉男・東大名誉教授・前総務審議官) (H 16.12.11/セントカテリーナホテル)
- 工学部国際インターンシップ報告会 (H 16.12.15/香川大学工学部)
- 能開電流工業高等専門学校運営懇談会 (H 16.12.16/能開電流工業高等専門学校)
- 四国経済産業局長を囲む会 (H 16.12.17/きまぎ亭)
- KUIS-POST会 (H 16.12.18/全日空ホテルクレメント高松)
- KSGG (香川善意通訳の会) 交流会 (H 16.12.19/喜代美山荘花柳海)
- 中国・哈爾濱工程大学と共同研究等打合せ (H 16.12.22~23/哈爾濱工程大学)
- 高等学校長との懇談会 (H 16.12.27/香川大学研究交流棟)
- テレビせとあ「新春春事対談」 (H 17.1.3/テレビせとあ (19CH) 700~800)
- 少利寺浄法グループ統一マーク・ロゴ制定記念祝賀会 (H 17.1.9/全日空ホテルクレメント高松)
- 米国コロンビア大学Gautam Dasgupta教授との懇談会 (H 17.1.12/香川大学工学部)
- 四国新年交流会 (H 17.1.12/四国経済連合会・四国生産性本部/高松国際ホテル)
- 香川ニュービジネスクラブ新春講演会・互礼会 (H 17.1.18/サンポート高松大ホール)

ダーシップ，教育歴という多次元の尺度に基づく点数制評価による透明で客観的な教員選考基準と公募制を導入。教育研究活動状況や学部貢献度の学部内公表，広報室・広報メディアセンターの設置も極めて特徴的である。

- ⑥ 外部評価 自己点検・評価結果に基づく日本人・外国人外部評価委員による外部評価の実施も時代を先取りした試みである。
- ⑦ 国際交流 外国の大学との学術交流協定の締結はよく見られるが，国際インターンシップ実施協定の締結と実際の実施は，当時としては極めてユニークなものである。
- ⑧ 産学連携 通常，大学と産業界の間の研究協力は，大学の産業界等への研究協力制度である「民間等との共同研究」「受託研究」「受託研究員制度」並びに大学への産業界からの協力制度である「奨学寄附金制度」「寄附講座，寄附研究部門」を通じて進められる。特に，本学工学部は，国立大学として我が国の科学技術創造立国という国是に応えて先端的な科学技術開発に積極的に挑むとともに，地域の熱い期待に応えて，地域ニーズを的確に見定めて研究テーマのチューニングを図り，地域の学術文化，産業，技術の振興に大きく貢献する観点から，積極的に産学連携を推進している。また，大学発ベンチャーや学生ベンチャーの設立にも注力している。
- ⑨ 地域貢献 ベンチャー支援技術講演会やフォーラム，国際会議，シンポジウム，ワークショップの開催と地域企業の関係者との交流を進め，地域の活性化に大きく貢献している。中でも，平成15年1月11日開催のノーベル物理学賞受賞者・小柴昌俊先生をお招きした「四国産学官連携シンポジウム」は圧巻であった。2,000人以上収容可能な県民ホールが参加者で埋まり多くの人をお断りせざるを得なかったのも，今は懐かしい思い出である。

本学部・研究科は生まれて歴史が浅いので知名度を高めるため，表10に示すように，定期的ラジオ放送による工学部の教官紹介（番組名「この指とまれ」，FM高松コミュニティ放送）の実施⁶⁾，並びに表11に示すように，定期的テ

レビ放送による本学部の研究活動紹介や科学技術の魅力発信（テレビせとうち放送番組「技術の森」及び「NEXT～未来への挑戦～」）を実施⁷⁾した。

6. おわりに

筆者が，機縁を得て，京都大学工学部機械工学科から，昭和51年7月に香川大学商業短期大学部商業学科に転任し，昭和57年4月に香川大学経済学部管理科学科に移籍，その後平成3年4月の経済学部改組に伴い情報管理学科に配置換えとなり，以来工学部創設に本格的に取り組み，平成8年5月工科系工学部創設準備室長，平成9年4月工学部創設準備室長，同年10月の工学部創設に伴い初代工学部長。平成14年4月大学院工学研究科修士課程創設に伴い初代工学研究科長，平成16年4月大学院工学研究科博士課程創設に伴い工学研究科長再任。

香川大学に転任以降は寝食を忘れて工学部・大学院工学研究科の創設に東奔西走する毎日であったが，平成9年10月の工学部創設以降も，生まれたばかりで知名度0の工学部の知名度アップに明け暮れる毎日であった。その間，平成17年3月末日定年退職するまでの間の初代工学部長としての諸活動の一部を記憶にある限り書き留めたのが表12である⁸⁾。半端ない多忙の毎日であったが，関係者一同の総力を挙げた努力を賜わり，今や工学部は新たに創造工学部へと脱皮し，発展を続けていることはご同慶の至りである。

本稿が，いささかなりとも読者諸氏の参考に供し得るものとすれば望外の幸せである。

参考文献

- 1) 中教審，(平成17年01月28日)，答申「我が国の高等教育の将来像」
- 2) 中教審，(平成30年11月26日)，答申第211号「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」
- 3) 文部科学省，審議会別諮問・答申等一覧，中央教育審議会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/toushin.htm

- 4) 香川大学五十年史編集委員会, (平成12年12月), 香川大学五十年史, 香川大学, pp.365-385.
- 5) 香川大学工学部創立十周年記念誌編集委員会, (平成19年10月1日), 香川大学工学部創立十周年記念誌, 香川大学工学部
- 6) 香川大学工学部, (平成17年1月31日), PUBLICITY FILE No.8 (地域の期待に応える工学部), 香川大学工学部, pp.18-21.
- 7) 同上, pp.21-25.
- 8) 同上, pp.25-34.